

さいたま言語研究

第4号

【研究論文】

- コスタリカ人日本語学習者の言語学習ビリーフの特徴 松本 匡史 … 1
- 過去推量形「～タロウ」と「～タダロウ」の使用実態
—BCCWJの文学作品を資料として— 李 兮然 … 14
- 句に下接する「くさい」について
—アンケート調査に基づいた「ぼい」との比較を通して— 大上 紗弥 … 26
- 現代短歌における二重表記の役割
—日本語学的見地から— 清水 恵理 … 38

【実習報告】

- 2019年度海外日本語教育実習報告
—浙江工商大学での気づきと成長— 松本 匡史・川亦 和也 … 52

【2019年度研究大会】

- 研究大会の報告および発表の要旨 … 62

2020年3月

さいたま言語研究会

コスタリカ人日本語学習者の言語学習ビリーフの特徴

松本 匡史

【キーワード】

コスタリカ、ビリーフ、JICA、青年海外協力隊、海外日本語教育

【要旨】

本稿では、コスタリカ人日本語学習者を対象に言語学習ビリーフ調査を行なった。調査の目的は、コスタリカ人日本語学習者の特徴を把握することにより、コスタリカでの日本語教育を発展・改善するためである。本調査結果を、メキシコを対象とした先行研究結果と比べることにより、コスタリカ人のビリーフを把握する。それに加え、コスタリカ人学習者を「高等教育機関」と「その他の教育機関」の2グループに分け、*t*検定を用い比較した。その結果、全51項目中9項目で有意差が確認された。

コスタリカの現状を把握することにより、日本国内の日本語教育や日本語教育が盛んな海外とは違うコスタリカの日本語教育というものを意識し、コスタリカにあったコース・授業デザインが必要になってくるだろう。

1. はじめに

海外での日本語教育は年々学習者が増えており、日本から遠く経済的な繋がりも薄い中米のコスタリカでも同様である。表1は、国際交流基金（以下 JF）の海外の日本語教育機関調査をまとめたものである。途中で増減はあるが、各項目とも年々増加の傾向が見られる。コスタリカでは2015年にメキシコを除いた中米カリブ地域において初めての日本語能力試験を実施し、これも年々受験者が増加している。日系移民の多いメキシコを除けば、距離的に遠く日本との関係が薄い中米地域において、日本語はあまり盛んではなかったが、国際協力機構（以下 JICA）などの支援やアニメなどの日本のポップカルチャーの流行などにより、コスタリカでも日本語教育が徐々に根付いてきている。しかし、2節「先行研究」で詳述するが、メキシコを除いた中米地域での日本語教育に関わる研究はほとんどなされていない。

表1. JFによるコスタリカ日本語教育の変遷のまとめ

調査年	機関数	教師数	母語話者教師数	学習者数
1974	1	2	調査未実施	25
1979-80	2	3	-	34
1984-85	2	3	-	44
1990	2	3	-	121
1993	4	8	-	155
1998	5	11	9	244
2003	5	10	4	261
2006	7	14	10	482
2009	7	16	11	380
2012	8	20	16	635
2015	8	26	14	522

筆者は、2015年9月から2017年12月まで、JICA 青年海外協力隊ボランティアの日本語教育隊員として、コスタリカ大学に派遣された。そこで、コスタリカ人と日本人の言語学習に関するビリーフの違いを経験し、日本語クラスの運営に戸惑った。そのような経験から、コスタリカの日本語教育を改善、発展させるためには、まずコスタリカ人日本語学習者（以下 CRS）のビリーフの特徴を把握することが重要ではないかと考えた。そのため、本稿では、ビリーフの先行研究がなされているメキシコとの比較をし、CRS のビリーフの特徴を明らかにする。そして、先行研究でも指摘されている学習者の所属機関種別のビリーフの違いをコスタリカでも明らかにするため、CRS の所属教育機関種別のビリーフの特徴の違いを明らかにし、詳細な CRS のビリーフの特徴の把握を試みることを目指す。

2. 先行研究

日本語教育学会編『新版日本語教育事典』（2005:807）では、「言語学習についての信念（ビリーフ）とは、言語学習の方法・効果などについて人が自覚的または無自覚的にもっている信念や確信を指す」とされている。教師と学習者の間にはビリーフのギャップがあり、「こうした場合、両者の調整が不十分なまま授業を強行すると学習者の積極的な参加を得ることはできない」と述べられている。

岡崎（1999:147-148）では、「言語教育をどうすすめるべきかに関わる考え方はその文化の影響を強く受けている。ここで取り上げる言語学習についての確信も文化的背景によって大きく規定されているものである」。そして、「教師の出身文化に基づく確信と学習者の出身文化に基づく確信とが時には対立し時には歩み寄るという形の相互交渉が（中略）不断に行われている」と述べられ、出身文化による違いがビリーフの対立を生むと指摘されている。先行研究を踏まえ、本稿ではビリーフを「人が自覚的・無自覚的にもっている言語学習についての考え方で、文化的背景やそれまでの経験や知識などから形作られるもの」とする。

学習者のビリーフ調査研究は、Horwitz（1987）が英語学習者のビリーフを調査するためビリーフ質問調査紙 BALLI（Beliefs About Language Learning Inventory）を作成し調査を行ない、その後、この質問調査紙 BALLI が日本語教育にも用いられ、世界各国の日本語学習者のビリーフ調査研究が行われた。例えば、中国（岡崎 2002）、韓国（呉 2007）などが挙げられるが、主に学習者数が多い国を対象としてのものがほとんどで、コスタリカでの調査研究は行われていない。

コスタリカに距離的・文化的に一番近いと思われる対象のビリーフ研究では、メキシコ人日本語学習者を対象とした高崎（2014）が挙げられる。高崎（2014:23）は、メキシコ人学習者の特徴を「教室内外を問わず日本語での会話や交流を楽しみにしていること、聴解や話す活動は好むが、語彙や読解等の文字を行動対象とする学習指向は低いこと等である。加えて、言語学習について楽観的で教師の直接指導に対して期待が高いことも窺えた」と述べている。

さらに、高崎（2014:32）は調査対象者を所属教育機関種別に「語学学校」と「大学」に分け、「就職のチャンスへの期待」について「機関種別では、大学よりも語学学校のほうで意識が強い」と述べ、学習者の特徴は所属する機関種別によってビリーフに差異が見られることを示した。しかし、「就職のチャンスへの期待」という項目においてのみ、それが述べられており、それ以外の差異については触れられていない。

阿部（2013）は、スペインのマドリードにおける日本語学習者のビリーフ調査を行い、対象者を所属する教育機関である大学、大学付属語学センター、公立語学学校の3つのカテゴリーに分け比較し、経済言語学的観点から考察を行った。それによると、大学とそれ以外の教育機関（語学センターと語学学校）との間に大きな差異があり、「言語学習に対するコスト意識の違いから、教師の役割や自分の言語技能や成績に対する考え方の違いが現れたことが分析できた」（p.175）と述べ、学習者の所属機関種別により、学習者のビリーフの特徴に違いがあることが示唆された。その原因として、「語学学校や語学センターで学習する場合、大学の授業料とは違って、日本語習得のためだけに授業料を支払うこととなる。そのような場合、言語学習に対する意識は相対的に高くなり、（中略）コスト意識を反映した「自分の成績や出来具合に対する敏感な意識」と、「日本語の難しさや言語技能習得（特に発音）の重要さへの意識」が見て取れた」（p.175）と述べている。

本稿では、CRS のビリーフの特徴を把握するために、同じ文化・言語圏でもあるメキシコとの比較を高崎（2014）のデータを用いて行う。さらに、より詳細な記述を目指し、先行研究でも示唆された所属教育機関種別のビリーフの特徴の違いを把握するため、CRS の所属教育機関を高等教育機関（大学）とその他の教育機関（語学学校等）に分け、その比較を通して CRS のビリーフの特徴の把握を試みる。

3. 調査

3-1 調査方法

本稿では、メキシコとの比較を通して CRS のビリーフの特徴を把握しようとする目的のため、高崎（2014）で用いられたメキシコ版 BALLI の一部をコスタリカ向けに手直したものをを用いる。ビリーフ研究では、対象や目的に合わせて BALLI の質問項目の増減・改変を行うが、本稿では比較のためこれらは行わず、質問内容は基本的に¹には同じである。

本稿での BALLI には質問項目が 51 項目設定されており、回答者はそれに対して「①強く賛成」「②賛成」「③賛成でも反対でもない」「④反対」「⑤強く反対」を選択する。データ収集後、回答平均値と標準偏差を計算し、それをメキシコとの比較に用いる。一般的なビリーフ研究であれば、統計処理を施し、対象グループの平均値間に有意差があるかどうかを調査するが、検定に必要なデータがメキシコのものについて全て揃えられ

¹ 質問内容の本質的な変更はないが、スペイン語の表現をコスタリカ向けに修正した。

ないものもあるため、本稿では検定を行わず平均値の比較にとどまることをここに断っておく。

本稿ではより詳しい CRS のビリーフの特徴を把握するため、メキシコとの比較に加え、データが全て手元にある CRS を機関種別に分け、統計処理を行う。具体的には、今回の調査協力者は日本語教育機関種別で見ると、「高等教育機関」と「その他の教育機関」に二分される。「高等教育機関」とは大学を、「その他の教育機関」とは語学学校等を指している。先行研究でも指摘されていたが、日本でもそうだが、大学で英語を学ぶことと、英会話教室などで学ぶことは、学習内容も、学習者のニーズ・動機も違うというのは自明のことである。そして、学習者が語学学習に対し対価を支払うかどうかということも大きな違いである²。これらの違いから、コスタリカでも教育機関種別で学習者のビリーフに違いがあるのではと考え、CRS を「高等教育機関」と「その他の教育機関」に分け統計処理を施し、違いを見ていく。

具体的な調査実施方法は、インターネットを通じたアンケート実施方法「Google form」を利用し、コスタリカ日本語教師会協力のもと、コスタリカ人日本語学習者に対して調査を行なった。調査時期は 2018 年 9 月から 10 月である。

3-2 調査協力者

表 2 に本稿の考察対象となる日本語学習者の情報を示す。表 2 の CRS は筆者が実際に収集したコスタリカ人日本語学習者の情報で、MXS は高崎（2014）で用いられたメキシコ人日本語学習者のものである。表 3 は、CRS274 人を所属教育機関種別にまとめたものである。機関種別で見ると「その他の教育機関」に 151 人、「高等教育機関」に 123 人となっている。年齢を見てみると、「その他」グループは平均 25.5 歳、上は 74 歳から下は 14 歳と幅広い。一般向けの語学教室のため、様々な年齢、職業の人が学んでいるのが特徴である。「高等」グループは平均年齢 21.9 歳、上は 49 歳から下は 17 歳となっている。このグループは、大学の第二言語選択科目で学んでいる学習者で、10 代後半から 20 代前半の大学生が大半を占めているのが特徴である。20 代後半以上の働きながら大学に通っている層も少数存在している。

表 2. 考察対象者情報

	CRS	MXS ³
総数	274 人	243 人
男女比	男 44.5% (122 人) 女 55.5% (152 人)	男 51% 女 49%
平均年齢	23.9 歳	23 歳
平均学習歴	1 年 1 ヶ月	2 年 1 ヶ月

² 実際にはコスタリカの大学は日本の大学と違い、各授業を履修登録するのに料金が掛かるが、語学学校に比べたら安価である。

³ MXS の情報は高崎（2014:26）の表 2 を基に作成。

表 3. CRS 機関種別情報

	機関別学習者数		計	平均年齢
その他の 教育機関	Casa de Idiomas	15	151 人 (54.1%)	25.5 歳
	日本文化センター	79		
	Centro Internacional de Idiomas (CIDI)	16		
	New Learning Academy	5		
	智美先生の日本語教室	9		
	Idiomas CR	12		
	Centro Tecnológico de Idiomas (CTI)	7		
Programa Institucional para el Adulto y Adulto Mayor (PIAM)	8			
高等教育 機関	コスタリカ大学	42	123 人 (44.9%)	21.9 歳
	コスタリカ大学オクシデンテ校	39		
	ナショナル大学	42		

4. 調査結果詳細

ここでは先行研究で示されたメキシコ人学習者との比較を通して CRS のビリーフ の特徴を見ていく。それに加え、CRS 内の「高等教育機関」と「その他の教育機関」という 2 つのグループの特徴についても、 t 検定で有意な差があると示された項目について適宜述べる。詳細は後述するが、まずはこの CRS 内の 2 つのグループの検定結果を述べる。用いた検定方法は t 検定で、これは 2 つのグループのある質問に対する回答の平均値間に、統計的に有意な差があるかどうかを示すためのものである。データを収集後、 t 検定を行い統計処理をした結果、CRS 内の「高等教育機関」と「その他の教育機関」の 2 グループでは平均値間に 5%水準以下で、全 51 の質問項目中 9 項目に有意差が見られた。表 4 にそれを示す。表の「高等」の項目は「高等教育機関」、「その他」は「その他の教育機関」に所属する学習者グループを意味し、その下の 1.81(0.76)などの数字は 1.81 が平均値を、括弧付きのものは標準偏差である。

同じコスタリカ人日本語学習者という属性のため、調査前の予想通り、有意な違いはこの 2 グループ間では少ない。松本 (2019) では、コスタリカ人日本語教師とコスタリカで教えた経験のある日本人日本語教師のビリーフの違いを調査した結果、全 51 項目中 27 項目で有意な差が明らかになったと報告した。それに比べ、本稿での「高等教育機関」と「その他の教育機関」の 2 グループは同じコスタリカ人の学習者同士ということもあり、有意な差は少ない。しかし、教育機関によるビリーフの違いも少なからずあるということが明らかになった。4.1 以降、メキシコ人との比較に加え、この 2 グループの違いも詳しく見ていく。

表 4. CRS 内の「高等教育機関」と「その他の教育機関」間の有意差のある項目

	質問内容	高等	その他	t 値	有意確率
16	学習者の評価は教師からされるべきだ。	1.81 (0.76)	1.60 (0.72)	-2.065	0.020
17	わからない日本語の単語はかならず辞書で調べるべきだ。	2.54 (0.99)	2.12 (0.94)	-3.358	0.000
19	外国語を学習するとき、教師に助言を求めるのが好きだ。	1.71 (0.70)	1.52 (0.62)	-2.121	0.017
22	自分の外国語学習のどの部分を改善すべきかわかっている。	1.93 (0.74)	1.72 (0.76)	-2.044	0.021
23	私の国の人、日本語や日本文化を知ることは重要だと考えている。	3.41 (0.89)	3.63 (0.91)	-1.734	0.042
29	外国語学習の中で一番重要なのは、文法の学習である。	2.51 (0.81)	2.29 (0.80)	-1.976	0.025
31	CDなどで練習することは重要だ。	1.84 (0.74)	1.64 (0.80)	-1.766	0.039
48	私の国では、日本語を話せることが重要だと思われる。	3.36 (0.96)	3.67 (0.91)	-2.498	0.007
49	私は日本語が上手に話せるようになりたい。	1.20 (0.54)	1.02 (0.14)	-3.665	0.000

4-1 「言語学習の適性」

本稿で用いた質問調査紙 BALLI には「言語学習の適性」「言語学習の本質」「言語学習とコミュニケーションストラテジー、教室活動」「学習動機」「教師の役割と学習者の自律性」の 5 つのカテゴリーがある。表 5~9 は本稿で調査したコスタリカ人日本語学習者 (CRS) に、高崎 (2014) で調査されたメキシコ人日本語学習者 (以下 MXS) のビリーフのデータを加え作成したものである。左端の数字は質問項目番号、右端の数値は上段がビリーフの平均値、下段の丸括弧内が標準偏差を表している。ここではまず、「言語学習の適性」カテゴリーについて見ていく。

このカテゴリーでは、CRS と MXS は同じような傾向を示しているが、項目 5 「私の国の人、外国語学習が得意である」では、MXS の考えは 3.06 とほぼ 3 となっているのに対して、CRS は 2.78 と賛成傾向である。平均値が 3 付近の数値ということは、その質問に対して「賛成でも反対でもどちらでもない」という中立意見⁴か、賛成または反対の両極端に意見が揺れていることを表し、意見が両極端の場合、標準偏差値が高くなる。項目 5 の場合、MXS の標準偏差はあまり高くないことから、「賛成でも反対でもどちらでもない」という中立意見が大半であると考えられる。逆に、CRS の回答平均値は 2.78 のため、賛成意見と中立意見での回答が多く、メキシコに比べ賛成意見を持っている人が多いと思われる。

項目 3 「私は自分が日本語を習得できている」、18 「私は外国語学習について特別な才能を持っている」からは、両グループとも外国語学習について楽観的で自信を持っている様子が見えてくる。特にコスタリカ人は、平均学習時間が 1 年 1 ヶ月にも関わ

⁴ 回答の「①強く賛成」「②賛成」を賛成意見、「③賛成でも反対でもない」を中立意見、「④反対」「⑤強く反対」を反対意見として扱う。

らず、日本語学習に強い自信を持っているようだ。

高崎（2014:29）は、項目 18 について MXS は「他に専門を持ちながら外国語も学習するには自信が必要なようで、3 カ国中最も高い」⁵と述べている。高崎（2014）の比較対象国はメキシコ、スペイン、フィリピンの 3 カ国⁶である。この中でメキシコが一番高い平均値を出しているため、このような記述がされているのだが、コスタリカはそれよりさらに高い平均値を示している。つまり CRS は外国語学習についての特別な才能を持っているという自信が 4 カ国中最も高いと言えるだろう。

このカテゴリーで CRS 内の 2 つのグループ「高等教育機関」と「その他の教育機関」のピリーフ調査結果に *t* 検定を施したが、統計上の有意差は現れなかった。そのため、このカテゴリーでは CRS 内の 2 グループの違いは確認されなかった。

表 5. 「言語学習の適性」平均値（上段）と標準偏差（下段）

	質問内容	CRS	MXS
2	ある言語は他の言語に比べて易しい。日本語は、①とても難しい言語 ②難しい言語 ③難しさは普通の言語 ④簡単な言語 ⑤とても簡単な言語	2.33 (0.75)	2.37 (0.85)
3	私は自分が日本語を習得できている。	2.03 (0.75)	2.29 (0.86)
5	私の国の人は外国語学習が得意である。	2.78 (0.77)	3.06 (0.89)
12	数学や科学が得意な人は外国語学習が得意ではない。	4.19 (0.92)	4.31 (0.91)
18	私は外国語学習について特別な才能を持っている。	2.45 (0.94)	2.59 (0.96)
41	全ての人が外国語を習得できる。	1.64 (0.89)	1.80 (1.04)
45	もし 1 日に 1 時間ずつ日本語を勉強したら、上手に話せるまでにどれくらいかかるか。①1 年以下 ②1~2 年 ③3~5 年 ④5~10 年 ⑤1 日に 1 時間では話せるようにならない。	2.51 (0.87)	2.90 (0.80)

4-2 「言語学習の本質」

次に「言語学習の本質」カテゴリーを表 6 にまとめる。項目 51「私は趣味を楽しむように日本語を学んでいる」では、両グループとも強く賛成しているが、CRS の方がより日本語学習を実用ではなく趣味として捉えているようだ。

高崎（2014:29）は、項目 9「外国語を習得するためには、その文化を知ることが必要だ」について MXS は「外国語学習で文化を知ることの必要性を考える割合は、3 カ国中メキシコが最も高い」⁷と述べている。コスタリカもメキシコとほぼ同じ値を示しており、コスタリカでも文化と言語学習の繋がりを強く意識しているのだろう。

CRS は、外国語学習の中で一番重要なことを尋ねる質問項目 20（語彙学習）、29（文法学習）、35（翻訳学習）の中で、項目 20 の語彙学習を平均値 2.06 と最も重要だと強

⁵ 項目 18 のスペイン平均値は 2.71、フィリピン平均値は 2.64（高崎 2014:29）

⁶ スペインのデータは阿部（2009）、フィリピンは高崎（2006）のものである。

⁷ 項目 9 のスペイン平均値は 2.00、フィリピン平均値は 2.14（高崎 2014:30）

く賛成している。文法学習についても平均値 2.39 と賛成意見が多く占めているが、翻訳学習については平均値 3.23 と反対意見が多い。これらの傾向はメキシコでも同様で、高崎 (2014:30) でも MXS は「学習上は語彙が翻訳や文法よりも重要だと考えている」と述べられている。

このカテゴリーで、CRS 内の「高等教育機関」と「その他の教育機関」間のビリーフに有意な差が示されたのは、項目 29「外国語学習の中で一番重要なのは、文法の学習である」のみであった。表 4 で平均値を見てみると、「高等」は 2.51、「その他」は 2.29 となっており、「その他」グループの方が文法学習を「高等」グループより強く重要だと思っているようだ。

表 6. 「言語学習の本質」平均値（上段）と標準偏差（下段）

	質問内容	CRS	MXS
6	日本語の学習は生活の質を豊かにする。	1.86 (0.79)	1.88 (0.84)
9	外国語を習得するためには、その文化を知ることが必要だ。	1.85 (0.91)	1.82 (0.89)
14	外国語学習はその外国語が話されている国で行なうのが一番いい。	2.09 (1.01)	2.05 (0.99)
20	外国語学習の中で一番重要なのは、語彙の学習である。	2.06 (0.85)	2.30 (0.89)
29	外国語学習の中で一番重要なのは、文法の学習である。	2.39 (0.81)	2.48 (0.90)
30	外国語を聞いて理解するよりも話すほうが易しい。	3.19 (1.05)	3.13 (1.12)
34	外国語学習の方法は、他の分野の学習とは異なる。	1.83 (0.84)	2.04 (0.96)
35	外国語学習の中で一番重要なのは、自分の言語からの翻訳の学習である。	3.23 (1.14)	3.38 (1.25)
42	外国語を話すより、読んだり書いたりするほうが易しい。	2.55 (1.13)	2.70 (1.09)
51	私は趣味を楽しむように日本語を学んでいる。	1.68 (0.92)	1.84 (1.07)

4-3 「言語学習とコミュニケーションストラテジー、教室活動」

次に「言語学習とコミュニケーションストラテジー、教室活動」カテゴリーを表 7 にまとめた。項目 27「外国語学習の誤りは初期の段階で訂正しなければ、後で訂正するのは難しい」では、メキシコより強く賛成しているのが見てとれる。MXS は平均 2.86 のため、中立意見もある程度あると思われるが、CRS は 2.38 とかなり賛成が多い。学習初期でもしっかりと訂正を望んでいるようだ。

高崎 (2014:30) では、項目 10、17、32 の結果から、学習者自身が課す規範について、MXS は「分からない言葉を自分で調べる必要をあまり感じないで、まだ正しく言えなくても話して積極的に参加する授業を指向している」と述べられている。一方 CRS は項目 17、32 では、MXS より賛成の度合いが高い。つまり CRS は MXS より、分からな

い言葉は辞書で調べ、まだ正しく言えなくても話し、積極的に参加する授業をより指向していると言える。

このカテゴリーで、CRS 内の「高等教育機関」と「その他の教育機関」間のピリーフに有意な差が示されたのは、項目 17「わからない日本語の単語はかならず辞書で調べるべきだ」、31「CD などで練習することは重要だ」であった。表 4 で平均値を見てみると、項目 17 では「高等」2.54 と「その他」2.12、項目 31 では「高等」1.84 と「その他」1.64 と示されている。両項目とも「その他」グループの方が賛成意見が強い。「高等」グループより、音声の聞き取り練習、さらに未知語彙の辞書などによる把握を強く望んでいるようだ。これは言い換えれば、未知語彙を推測することによって早く読むような読解練習などは、あまり好まないと言えるだろう。

表 7. 「言語学習とコミュニケーションストラテジー、教室活動」平均値と標準偏差

	質問内容	CRS	MXS
7	きれいな発音で話すことが重要だ。	1.83 (0.83)	1.85 (0.90)
10	正しく言えるようになるまでは話すべきではない。	3.88 (0.96)	4.09 (0.95)
13	学習者は教師の説明を聞き、答えを求められたときだけ答えるべきだ。	3.44 (1.06)	3.53 (1.07)
15	日本人との日本語の練習は楽しい。	1.56 (0.73)	1.49 (0.72)
17	わからない日本語の単語はかならず辞書で調べるべきだ。	2.31 (0.99)	2.45 (1.00)
21	繰り返し練習することが重要だ。	1.29 (0.51)	1.52 (0.98)
25	他の人と日本語で話すとき、不安を感じて臆病になることがある。	2.31 (1.08)	2.63 (1.19)
26	教室で学習者同士で日本語を話しても、学習の役には立たない。	4.26 (0.86)	4.39 (0.89)
27	外国語学習の誤りは初期の段階で訂正しなければ、後で訂正するのは難しい。	2.38 (1.07)	2.86 (1.23)
31	CD などで練習することは重要だ。	1.73 (0.78)	1.57 (0.72)
32	学習者が積極的に教室活動に参加するような授業は良い授業だ。	1.32 (0.57)	1.40 (0.58)

4-4 「学習動機」

次に「学習動機」カテゴリーについて見ていく。項目 23「私の国の人々は、日本語や日本文化を知ることが重要だと考えている」、48「私の国では、日本語を話せることが重要だと思われる」では、両国とも自国社会での日本語、日本文化の重要度は高いと思われる。コスタリカではそれをさらに強く感じているようだ。

項目 37「日本語ができれば、いい就職のチャンスがある」については多少考えの差が見られ、MXSの方が強く賛成を示している。コスタリカに比べメキシコには日系企業が多いと推測される。意外なのは、CRSも平均1.92と強い賛成を示しているところである。CRSは、コスタリカにおいて日本語の重要度が低く、日系企業も少ないこと

を認識しつつも、就職のチャンスへの期待感を持っているようだ。

高崎 (2014) では、項目37「就職のチャンスへの期待」についてメキシコの地方別・機関種別での違いを分析している。それによると、「地方別に見ると中部、東部、首都圏の順位に高く、機関種別では、大学よりも語学学校のほうで意識が強い。中部では本調査の前後に日系企業の進出が本格化」(p.32)した影響があるのではと述べられている。

本稿では「高等教育機関」と「その他の教育機関」(高崎 (2014) での「語学学校」にあたる)のピリーフの差をt検定を用いて明らかにしているが、項目37に関しては有意差は示されていない。有意差が示されていないため、表4にピリーフ結果詳細は載せていないが、項目37の「高等」は平均値1.90・標準偏差0.74、「その他」では平均値1.93・標準偏差0.91となっている。若干「高等」グループの方が賛成意見が強いが、日系企業が少ないコスタリカでは機関種別での差はほとんどないと言って良い。

このカテゴリー内でCRSの「高等」と「その他」グループに有意差が出た項目は、23「私の国の人は、日本語や日本文化を知ることが重要だと考えている」、48「私の国では、日本語を話せることが重要だと思われる」、49「私は日本語が上手に話せるようになりたい」である。日本語の重要さを聞く質問の項目23と48を見てみると⁸、両項目とも「その他」グループの方が否定へ傾いている。つまり、「その他」グループの学習者は、日本語の重要さはコスタリカでは低いと「高等」グループより強く思っているが、安くない授業料を払って語学教室に通っているということである。

表 8. 「学習動機」平均値 (上段) と標準偏差 (下段)

	質問内容	CRS	MXS
23	私の国の人は、日本語や日本文化を知ることが重要だと考えている。	3.53 (0.90)	3.47 (0.99)
37	日本語ができれば、いい就職のチャンスがある。	1.92 (0.84)	1.74 (0.91)
38	私は日本人の友人を作りたい。	1.43 (0.60)	1.41 (0.70)
40	外国の文化について知りたい場合、外国語を学習しなくても自分の言語で多くのことを知ることができる。	3.45 (1.08)	3.62 (1.13)
48	私の国では、日本語を話せることが重要だと思われる。	3.53 (0.95)	3.38 (1.08)
49	私は日本語が上手に話せるようになりたい。	1.10 (0.38)	1.09 (0.38)
50	日本語を学ぶだけでなく、いつか教えたいと思う。	2.67 (1.21)	2.26 (1.20)

4-5 「教師の役割と学習者の自律性」

次に「教師の役割と学習者の自律性」カテゴリーについて見ていく。高崎 (2014:32) では、MXSは「教師の助言や指導を好むようである (項目 19、36)」。さらに「教師に目標を設定してもらい教師の言うとおりに勉強すれば上達が早くなる」と感じている (項

⁸ 項目 23 では「高等」平均値 3.41 「その他」 3.63、項目 48 では「高等」平均値 3.36 「その他」 3.67

目8、11、24) など、自律学習の指向は強くない」と述べられている。表9を見ると、項目19、36、8、11、24の平均値はMXSに比べCRSの方が全ての項目において賛成意見へ傾いている。つまり、CRSはMXSに比べさらに教師の助言や指導を好み、教師に目標を設定してもらい教師の言うとおりに勉強すれば上達が早くなると思っており、自律学習の指向は強くないと言えるだろう。言語学習に対して教師に依存、または教師に対しそのような期待を持っていることがうかがえる。

このカテゴリー内でCRSの「高等」と「その他」グループに有意差が出た項目は、16「学習者の評価は教師からされるべきだ」、19「外国語を学習するとき、教師に助言を求めるのが好きだ」、22「自分の外国語学習のどの部分を改善すべきかわかっている」である。3つの項目全てで「その他」グループが「高等」グループより強く賛成しており、教師に対する依存的な考えは「その他」グループの方が強いと言える。

表9. 「教師の役割と学習者の自律性」平均値（上段）と標準偏差（下段）

	質問内容	CRS	MXS
1	外国語学習に成功するにはいい教師が必要だ。	1.53 (0.76)	1.60 (0.80)
4	教師による定期的な試験は学習者にとって助けになる。	1.63 (0.72)	1.70 (0.80)
8	教師が学習到達目標を設定しなければならない。	1.59 (0.66)	1.88 (0.85)
11	教師にどのように学習を進めるべきか教えてほしい。	1.51 (0.59)	1.83 (0.81)
16	学習者の評価は教師からされるべきだ。	1.70 (0.75)	1.67 (0.75)
19	外国語を学習するとき、教師に助言を求めるのが好きだ。	1.60 (0.66)	1.77 (0.83)
22	自分の外国語学習のどの部分を改善すべきかわかっている。	1.81 (0.76)	1.88 (0.83)
24	教師の言う通り勉強すれば外国語の上達が早くなる。	1.86 (0.72)	1.98 (0.76)
28	自分の間違いを自分でチェックするとき、一番学習できる。	2.77 (0.91)	2.81 (0.95)
33	教師は学習者を一生懸命学習させなければならない。	1.41 (0.66)	1.63 (0.78)
36	教師に自分がどのくらい外国語学習が進んだか教えてほしい。	1.61 (0.68)	1.82 (0.82)
39	教師に自分の外国語学習上の問題点や困難点を教えてほしい。	1.36 (0.53)	1.54 (0.93)
43	はっきりとした目的があれば外国語の上達が早くなる。	1.89 (0.81)	1.87 (0.86)
44	日本語を習うことはその文化を研究するためだけでなく、社会、政治、科学技術等を研究するためにも助けになる。	2.07 (0.94)	2.04 (0.89)
46	教師は学習者がよく勉強するように動機付けるべきだ。	1.38 (0.60)	1.55 (0.72)
47	教師は学習者の学習環境を整えるべきだ。そうして学習者のサポートを続けるべきだ。	1.52 (0.65)	1.60 (0.70)

5. まとめ

最後に、CRS のビリーフの特徴をまとめる。今回の調査協力 CRS は、日本語の習得には毎日勉強したとしても 2~5 年かかると思っているが、自らの言語習得能力には強い自信を持っており、楽観的な面が見られる。外国語学習で文化を知ることの必要性を感じており、文化と言語学習の繋がりを強く意識しているようだ。学習の中で語彙学習を最も重要だと考え、文法学習が次いで重要だと思われる。「その他」グループは「高等」グループに比べ、文法学習を重要だと思う割合が高い。翻訳学習には否定的であり好ましく思っていない。誤りは学習初期段階での訂正を望み、語彙学習を重視しているため、分からない単語は逐一辞書で調べ、学習者が積極的に参加する授業を指向している。「その他」グループは「高等」グループより、音声の聞き取り練習、分からない単語の辞書による把握を望む割合が高い。

CRS は、コスタリカにおいて日本語の重要度が高くなく、日系企業も少ないことを認識しつつも、就職のチャンスへの期待感を持っている。「その他」グループの学習者は、日本語の重要さはコスタリカでは低いと「高等」グループより強く思っているが、自ら授業料を払って語学教室に通っている。

佐藤 (2017) は、メキシコ人学習者の学習動機や興味を分析している。そのなかで、学習歴1年未満と学習歴1年以上2年未満のグループの興味の違いに言及し、1年未満のグループのみに「新奇性 (日本語の文字が「新しい」ものとしてだけでなく、「ほかにはない珍しい、特別な」もの) によって興味として現れている」(p.106) と述べている。本稿の CRS も多くは1年未満の学習者のため、佐藤 (2017) と同じく、CRS もコスタリカ社会での日本語の重要度が低いからこそ、日本語に「新奇性」を感じ学んでいるのではないだろうか。コスタリカでの学習動機に関する研究はされていないため、これは今後の課題とする。

CRS は教師の助言や指導を好み、教師に目標を設定してもらい教師の言うとおりに勉強すれば上達が早くなると思っており、自律学習の指向は強くないと言える。CRS は言語学習に対して教師に依存、またはその期待を持っていることがうかがえる。教師に対する依存的な考えは「その他」グループの方が「高等」グループより強い。先行研究でも示唆された通り、教育機関種別により、学習者のビリーフの特徴に違いが確認された。コスタリカでは、日本語教師不足により、教師が機関の掛け持ちをすることが珍しくないが、機関により授業スタイルを多少変える必要があると思われる。

CRS は趣味としての日本語学習を強く意識しており、これは日本語に実用目的がないためであり、そのため日本語学習を楽観的に捉えているようである。CRS の日本語や日本文化への興味は高いが、コスタリカ社会での実用可能性は少ない。そのため趣味としての意識が強く、学習者のほとんどが初級者で学習が継続しない。コスタリカの現状を見れば、日本国内の日本語教育や日本語教育が盛んな海外とは違う日本語教育を意識したコース・授業デザインが必要になってくるだろう。

参考文献/web

- 阿部 新 (2009) 「スペイン・マドリードの大学における日本語学習者の言語学習ビリーフ」
『名古屋外国語大学外国語学部紀要』(37), pp.25-62.
- 阿部 新 (2013) 「スペイン・マドリードの日本語学習者の言語学習ビリーフの経済言語学的
解釈-大学生・大学語学センターの学生・公立語学学校の学生の比較-」『明海日本語』
(18), pp.159-178.
- 岡崎 眸 (1999) 「学習者と教師の持つ言語学習についての確信」『日本語教育と日本語学習-
学習ストラテジー論にむけて-』宮崎里司・J.V.ネウストプニー (編), くろしお出版,
pp.147-158.
- 岡崎智己 (2002) 『最新の学習理論と学習支援システムに基づいた中国人大学生のための日本
語コースの開発』(平成 11 年度~平成 13 年度科学研究費補助金 基礎研究 (B) (2) 課
題番号 11694006 研究報告書)
- 呉 禧受 (2007) 「日本語学習におけるビリーフと学習ストラテジーの関係-日本語を専門と
する韓国人大学生を対象に-」『ことばの科学』20, pp.49-64.
- 佐藤 梓 (2017) 「JFL 環境における日本語学習者の「興味」-メキシコ人日本語学習者を対
象に-」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』(24), pp.91-108.
- 高崎三千代 (2006) 「フィリピン・マニラ首都圏の大学における日本語学習者のビリーフ -
歴史的・社会的背景の視点からの考察-」『国際交流基金日本語教育紀要』(2), pp.65-80.
- 高崎三千代 (2014) 「メキシコにおける日本語学習者の特性-ビリーフ調査結果を中心に-」
『国際交流基金日本語教育紀要』(10), pp.23-38.
- 独立行政法人国際交流基金 (2017) 『海外の日本語教育の現状-2015年度 日本語教育機関調
査より-』(別売りCD-ROM参照)
- 独立行政法人国際交流基金「海外日本語教育機関調査」2019年11月1日web参照
(<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/index.html>)
- 日本語教育学会 (2005) 『新版日本語教育事典』大修館書店
- 松本匡史 (2019) 「コスタリカ日本語教育における NT と NNT の同異点-言語学習ビリーフ調
査を通して-」『さいたま言語研究』(3), pp.13-25.
- Horwitz, E. K. (1987) Surveying student beliefs about language learning. *Learner strategies
in language learning*, pp.119-129. London: Prentice-Hall.

(埼玉大学大学院人文社会科学研究所博士前期課程)

過去推量形「～タロウ」と「～タダロウ」の使用実態

—BCCWJの文学作品を資料として—

李 兮然

【キーワード】

過去推量形、～タロウ、～タダロウ、文学作品、使用実態

【要旨】

本稿は、現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）に収録されている文学作品を調査資料として過去推量形である「～タロウ」と「～タダロウ」の使用実態を分析するものである。

結果として、まず、前接する語の品詞に関して、動詞や補助動詞が前接する動詞型の場合、「～タダロウ」の使用が好まれるのに対し、名詞を代表とする名詞型の場合、「～タロウ」の使用が好まれる傾向が見られた。また、過去推量形の意味的用法と、会話か地の文かとの間に相互関係があり、「推量」と「不定推量」は「地の文」に多く現れ、「確認要求」は「会話」に多く現れることが確認できた。最後に、経年変化について、1940年代以降、「～タダロウ」の使用数が「～タロウ」を上回るものの、「～タロウ」もまだ使われ続けている等の特徴を明らかにした。

1. はじめに

過去推量を表す形式には、次の例1の「経過しただろう」のような「～タダロウ」形と、例2の「聞いていたらう」のような「～タロウ」形がある。

- (1) あれから四十分は経過しただろう。

OB1X_00302 エーゲ海に捧ぐ 池田満寿夫第一小説集¹

- (2) あのとき間宮も一緒だったから、話ぐらいは聞いていたらう。

PB29_00014 ともだち

¹ 例文は現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）による。下線などは筆者が施したものである。以下同様。

過去、非過去を含めた推量表現の形式をまとめると、表1のようになる。

表1 推量表現の形式

	～ダロウ	～(ヨ)ウ
非過去	(Ⅰ)～ダロウ	(Ⅱ)～(ヨ)ウ
過去	(Ⅲ)～タダロウ	(Ⅳ)～タロウ

本稿の目的は、表1で示したⅢ、Ⅳに該当する二つの過去推量形「～タロウ」と「～タダロウ」の使用実態を明らかにすることである。具体的には、現代日本語書き言葉均衡コーパス（以下、BCCWJと呼ぶ）における文学作品を対象として分析を行う。

2. 先行研究

推量表現に関する先行研究が数多くあるなか、過去推量形について言及したものとして、沖森（2010,2017）、長井（2008）がある。

まず、沖森（編）（2017:106-107）は、歴史的視野から「～タロウ」「～タダロウ」について記述し、「過去推量では、「たろう」「ましたろう」が幕末から明治前期に用いられていた（中略）しかし、「ただろう」「たでしょう」がこれに取って代わり、明治20年（1887）年以降一般化した」と指摘している。

一方、長井（2008）は終止用法、疑問用法、仮定用法また丁寧形において、「だろう」（本稿でいう「～ダロウ」「～タダロウ」）と「う」「よう」（本稿でいう「～(ヨ)ウ」「～タロウ」）の使用傾向を比較している。その中で、過去推量形について、「活用語に接続する過去推量の表記には「たろう」と「ただろう」の二通りがある。（中略）前者が古い形であり、後者においては次第に顕著になったように見受けられる」（長井2008:331）と説明している。ただし、調査資料は夏目漱石、三遊亭圓朝、森鷗外の作品に限られており、より客観的に推量表現の経年変化を捉えるため、調査資料の範囲や期間を広げて収集する必要性も考えるべきだと思われる。

また、「～タロウ」「～タダロウ」の考察を主眼とした研究ではないが本稿の考察にあたって参考になるものとして、三宅（2010a,b）、白岩（2015,2016）を挙げておく。

三宅（2010a,b）は、意味的用法を考察し、「～ダロウ」を6用法に分類している。このうち、本稿の分析に関わるのは、平叙文、疑問文における「最も原型的な用法（プロトタイプ）」（三宅2010a:10）とされている「推量」「不定推量」と、「「推量」を表すということから拡張したもの」（三宅2010a:46）とされている「確認要求」の3つの用法である。それぞれの定義と例文を下に記す。

推量 話し手の想像の中で命題を真であると認識する。

(3) 「来るのはいつ頃ですか？」

「五時半は過ぎるだろうな。あいつのことだから」 三宅（2010a:11）

確認要求 話し手にとって何か不確実なことを、聞き手によって確実にしても
らうための確認を要求する。

(4) 「きみは、資産家に生まれたら一生気楽に生きていける、そう思ってるだろ
う？」 三宅 (2010a:29)

不定推量 話し手の想像の中で命題が不確定であると認識する。

(5) 大戸はこれからどうするのだろう。これから先もボクシングを続けていか
なくてはならないのだろうか。 三宅 (2010b:59)

最後に、本稿が用いる手法と類似した部分があるものとして、白岩 (2015,2016) を取り上げる。白岩 (2015) は、江戸期から現代にいたるまでの大衆的な文芸作品の会話文をもとに通時的に「確認要求」用法の増加 (図 1) を指摘している。そして課題として、「現在の筆者の手持ちのデータでは、そこまで精査する準備はないが、ダロウ、ウ、マイ、タロウ、デショウといった各形式間の違いについても、検討の余地は大いにある」 (白岩 2016:25) との記述がある。

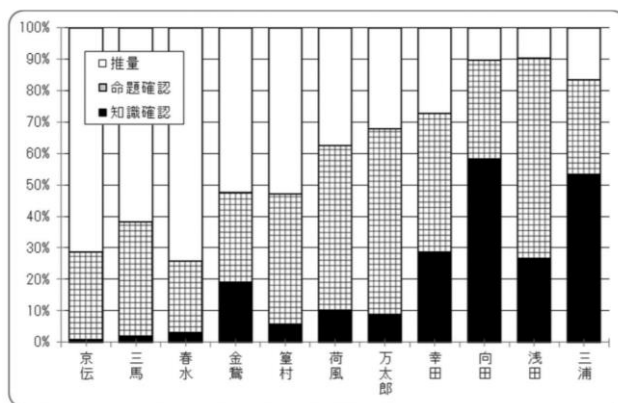


図 1 推量形式の用法の変化 (文芸資料) (白岩 2015:7)

3. 研究目的

以上の先行研究を踏まえたうえで、本稿では、これまで中心的に扱われることの少なかった過去推量形「～タロウ」と「～タダロウ」に注目し、作品の著者を指定せず、文学作品における使用実態について考察していくことを目的とする。

ジャンルを文学作品に限定したのは、年代を通して一貫性を保つためである。他ジャンルに関する考察や、ジャンル間の比較などについては稿を改めて分析したい。

また、考察の項目については、先行研究を参考に、主に前接語品詞、意味的用法、会話・地の文の 3 つの観点から、「～タロウ」と「～タダロウ」の使用状況を考察していく。

4. 研究方法

データの収集に使用したコーパスは BCCWJ で、最終検索日は 2019 年 10 月 2 日である。収集されたデータの範囲は、著者の生年代で見ると、1840 年代生まれ～1990 年代生まれである。

4-1 検索方法及び検索対象

検索方法及び検索対象は、以下のように指定する。

〈検索方法〉

「～タロウ」 キー：指定しない

後方共起：語彙素「た」＋品詞「助動詞」＋活用形「意志推量形」

「～タダロウ」 キー：指定しない

後方共起 1：語彙素「た」＋品詞「助動詞」＋活用形「終止形」

後方共起 2：語彙素「だ」＋品詞「助動詞」＋活用形「意志推量形」

〈検索対象〉

出版・雑誌 教育・学芸（文学／芸術）

出版・書籍 9 文学

図書館・書籍 9 文学

特定目的・ベストセラー 9 文学

4-2 除外対象

より堅実な結果を得るため、翻訳作品、歴史小説の用例を対象外とする。また、執筆者不明、生年代不明、表記不明の用例も対象から外す。さらに、文頭に現れる用例、丁寧表現、方言・古語と関わる用例や、重複、省略、過去推量でない用例も今回の考察の対象外として扱うことにする。

表 2 除外対象について

除外対象	例
翻訳作品	(執筆者) ジョン・ヘイル(著)/後藤 安彦(訳)
歴史小説	(書名・副題) カーマロカ 将門異聞
執筆者不明	(執筆者) 実著者不明
生年代不明	(生年代) (空白)
表記不明	(LBj9_00219 忘れられた帝国) 赤すきんを食べたオオカミを村の人か食べて、きっとケロを吐いた <u>た</u> ろう。

文頭に現れる	(LBm9_00233 覆面作家の愛の歌) 「いつ、どこにかけたかも分かるんですか」 「 <u>だったろう</u> と思います」
丁寧表現	(PM22_00095 新潮 2002 年 5 月号) さぞやご無念でござりました <u>らう</u> 。
方言・古語	(OB4X_00181 蔵) ドイツ語の辞書一冊買って神田へ行き、何軒か回って <u>みたら</u> も、医学の専門書でがんはなかなかにめんどうら。

5. 考察

5-1 全体像

4 節で述べた研究方法を踏まえたうえで BCCWJ から抽出した全ての用例数を「文学全体」、除外作業を行った後に残された用例を「分析対象」と呼ぶこととし、集計結果をまとめると、表 3 のようになる。

表 3 BCCWJ における「～タロウ」と「～タダロウ」－全体像

	～タロウ		～タダロウ	
	用例数	選好率 ²	用例数	選好率
文学全体	1308	43.25%	1716	56.75%
分析対象	856	48.91%	894	51.09%

表 3 からわかるように、「分析対象」となる「～タロウ」「～タダロウ」の使用に偏りは見られなかった。一方、次の 5-2 節以降で述べるように、前接語品詞などでは特徴的な部分が見られた。

5-2 前接語品詞

前接する語の品詞を分類する際、形態上の特徴に基づいてまず動詞型、名詞型とイ形容詞型に大分した。具体的な分類と一部の用例³は以下のようなものである。そして、用例数を統計し選好率を計算した結果は表 4 である。

動詞型	「動詞／補助動詞＋たろう」 「動詞／補助動詞＋ただらう」
-----	---------------------------------

² 2 つ (以上) の表現のうち、どちらを選ぶかという傾向を示す数値。この場合、「～タロウ」と「～タダロウ」。

³ 紙幅の関係で、前接語品詞が名詞の場合 (例 10-13) 以外、他の品詞については 1 例ずつ挙げている。

- (6) (=1 動詞+ただろう)
あれから四十分は経過しただろう。
OB1X_00302 エーゲ海に捧ぐ 池田満寿夫第一小説集

- (7) (=2 補助動詞+たろう)
あのとき間宮も一緒だったから、話ぐらいは聞いていたらう。
PB29_00014 ともだち

名詞型 「名詞/ナ形容詞/副詞/助詞/助動詞+であったらう/だったらう」
「名詞/ナ形容詞/副詞/助詞/助動詞+であったらう/だっただらう」

- (8) (名詞+であったらう)
恐らく千九百七十年にアンコールワットを訪れた外国人は私が最後であっ
たらうと思う。
LBf9_00180 報道カメラマン

- (9) (名詞+であったらう)
幾十回となく洗い晒したものであったらうのに、汚れてはいなかった。
OB2X_00190 生きて行く私 上

- (10) (名詞+だったらう)
そういう母の姿は、むしろ父があつてこそその光景だったらう。
LB19_00018 台所

- (11) (名詞+だっただらう)
昔はさぞかし美少年だっただらうな」
PB39_00481 ナポリ魔の風

- (12) (ナ形容詞+であったらう)
それが一冊の本になったのであるから、どれほど感無量であったらう。
PB19_00034 殺意の接点

- (13) (副詞+だったらう)
二十五の若さで、子供たちを残して逝く無念はいかばかりだったらう。
PB59_00004 海賊丸漂着異聞

- (14) (助詞+だっただらう)
進は三十代の半ばくらいだっただらう。
PB29_00054 夢のかたみ

- (15) (助動詞+だっただらう)
正確にはそういうべきだっただらう。
LBr9_00098 霧の中の頼子

イ形容詞型 「一般イ形容詞／形容詞ナイ／助動詞ナイ＋たろう」
 「一般イ形容詞／形容詞ナイ／助動詞ナイ＋ただろう」

(16) (一般イ形容詞＋たろう)

「さぞ、つらかったろうな」と、部下に半ば詫びるようにいったりした。

OB1X_00048 城山三郎全集第1巻

(17) (形容詞ナイ＋たろう)

そしてその役は私しかなかつたろう。

OB5X_00024 弟

(18) (助動詞ナイ＋ただろう)

「工事課の第七課長代理だよ、まだ会ってなかつただろう?」フジオミは不安げにうなずいた。

LBm9_00036 タイム・リーパー

表4 BCCWJにおける「～タロウ」「～タダロウ」－前接語品詞

前接語品詞		～タロウ		～タダロウ	
		用例数	選好率	用例数	選好率
動詞型	動詞	293	40.25%	435	59.75%
	補助動詞	76	26.03%	216	73.97%
名詞型	名詞	253	83.50%	50	16.50%
	ナ形容詞	8	72.73%	3	27.27%
	副詞	6	100.00%	0	-
	助詞	4	66.67%	2	33.33%
	助動詞	8	88.89%	1	11.11%
	複数あり	41	89.13%	5	10.87%
イ形容詞型	一般イ形容詞	28	42.42%	38	57.58%
	形容詞ナイ	56	50.45%	55	49.55%
	助動詞ナイ	80	47.62%	88	52.38%
不明		3	75.00%	1	25.00%
計		856	48.91%	894	51.09%

表4からわかるように、BCCWJの文学作品において、前接語品詞が動詞型の場合、「～タダロウ」を使用する傾向にある。これに対し、名詞、ナ形容詞といった名詞型が前接語品詞の場合、使用が「～タロウ」のほうに傾くことが伺える。

なお、名詞型の場合、前接語と「～タロウ」「～タダロウ」の間に「デアル」が入る場合と「ダ」が入る場合の二通りがあり、合わせて四通りの形式がある（例 8-11）。そこで、形式別に使用上違いがあるかどうかをみるため、表 5 のようにまとめた。結果として、前接語が名詞型の場合、「～タロウ」「～タダロウ」の間に「デアル」「ダ」のいずれを挿入しても、「～タロウ」の使用が好まれるという結論に変わりがなかった。

表 5 名詞型の「～タロウ」と「～タダロウ」

名詞型	～であったろう		～であったらろう		～だったろう		～だったらろう	
	用例数	選好率	用例数	選好率	用例数	選好率	用例数	選好率
名詞	98	89.91%	11	10.09%	155	79.90%	39	20.10%
ナ形容詞	2	100.00%	0	-	6	66.67%	3	33.33%
副詞	1	100.00%	0	-	5	100.00%	0	-
助詞	1	100.00%	0	-	3	60.00%	2	40.00%
助動詞	2	100.00%	0	-	5	83.33%	1	16.67%
複数あり ⁴	14	100.00%	0	-	27	83.38%	5	15.63%
計	118	91.47%	11	8.53%	201	80.08%	50	19.92%

以上のことを結論 I としてまとめる。

結論 I 前接語品詞について

- 〈動詞型〉 「～タロウ」 < 「～タダロウ」
- 〈名詞型〉 「名詞」との間に「デアル」「ダ」のいずれを挿入しても、
「～タロウ」 > 「～タダロウ」
- 〈イ形容詞型〉 使用上の傾向が見られなかった。

5-3 意味的用法と会話・地の文

意味的用法の分類に関して、2 節で述べたように三宅（2010a,b）に基づき、「推量」「不定推量」「確認要求」の 3 つの用法に分ける。また、用例が会話か地の文かの判断は目視で行った。分類しがたい用例を「不明」と記す。結果は表 6、表 7 である。

(19) (=6 推量)

あれから四十分は経過したたらう。

OB1X_00302 エーゲ海に捧ぐ 池田満寿夫第一小説集⁵

⁴ 『日本国語大辞典』において品詞が複数提示されているもの（例：大変、迷惑等）。

⁵ 例文は現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）による。下線は筆者が施したものである。以下同様。

(20) (=12 不定推量－疑問語を含む)

それが一冊の本になったのであるから、どれほど感無量であつたらう。

PB19_00034 殺意の接点

(21) (不定推量－句末に「か」が付く)

「やっぱり手を振るべきだつたらうか？」

LBh9_00085 スーパー・ゼロ

(22) (=18 確認要求)

「工事課の第七課長代理だよ、まだ会ってなかつたらうか？」フジオミは不安げにうなずいた。

LBm9_00036 タイム・リーパー

表6 BCCWJにおける「～タロウ」と「～タダロウ」－意味的用法

	～タロウ		～タダロウ	
	用例数	選好率	用例数	選好率
推量	465	50.00%	465	50.00%
確認要求	166	49.70%	168	50.30%
不定推量	178	45.88%	210	54.12%
不明	47	47.96%	51	52.04%
計	856	48.91%	894	51.09%

表7 BCCWJにおける「～タロウ」と「～タダロウ」－会話・地の文

	～タロウ		～タダロウ	
	用例数	選好率	用例数	選好率
会話	256	52.14%	235	47.86%
地の文	586	49.58%	596	50.42%
不明	14	18.18%	63	81.82%
計	856	48.91%	894	51.09%

表6、表7において、「不明」を除いて）選好率が全て45.00%～55.00%の間にとどまっているのが伺える。それに対し、意味的用法と会話・地の文の相互関係を表8のように整理してみると、「推量」と「不定推量」は「地の文」に多く現れ、「確認要求」は「会話」に多く現れることが分かる。

また、「地の文」に現れる「確認要求」の用例が相手をからかうような顔を描写する例23、24の二例しか見られず、多くの先行研究が指摘した「確認要求」の場合、相手の存

在を必要とするということを改めて確認できた。

- (23) 「いい眺めだね」といった。そしてどうだ、敗けたらうというような顔で、くっくつと笑った。

LBk9_00271 逃げ水上巻

- (24) どうだ、小生意気な口をききやがってこんどは少しおどろいたらうと、いたげな勘六の顔だ。

LBc9_00029 裏町の人生

表 8 意味的用法と会話・地の文の相互関係

	～タロウ			～タダロウ		
	会話	地の文	不明	会話	地の文	不明
推量	54	402	9	35	409	21
確認要求	162	2	2	162	0	6
不定推量	10	165	3	9	184	17
不明	30	17	0	29	3	19
計	256	586	14	235	596	63

意味的用法と会話・地の文について、結論Ⅱとしてまとめる。

結論Ⅱ 意味的用法、会話・地の文について

- 〈意味的用法〉 使用上の傾向が見られなかった。
 〈会話・地の文〉 使用上の傾向が見られなかった。
 〈相互関係〉 多用①推 量×地の文 (例 1)
 多用②確認要求×会 話 (例 18)
 多用③不定推量×地の文 (例 12)
 (確認要求×地の文はほとんどない)

5-4 経年変化

BCCWJの文学作品における「～タロウ」と「～タダロウ」の経年変化を図2で示す。なお、年代は著者の生年代である。1850年代において両形式とも用例がなかった以外、1840年代から1980年代までの間の変化が把握できた。

まず、1840年～1879年(左4列)において、「～タロウ」の用例しか見られなかった。そして、1880年(左5列目)に入り「～タダロウ」の用例が現れたが、1939年(右6列目)までは50%以下にとどまり、「～タロウ」のほうが優勢であることがわかる。その後、1940年以降(右5列)、「～タダロウ」の使用数が「～タロウ」を超えたが、「～タロウ」

もまだ使われ続けていることも読み取れる。

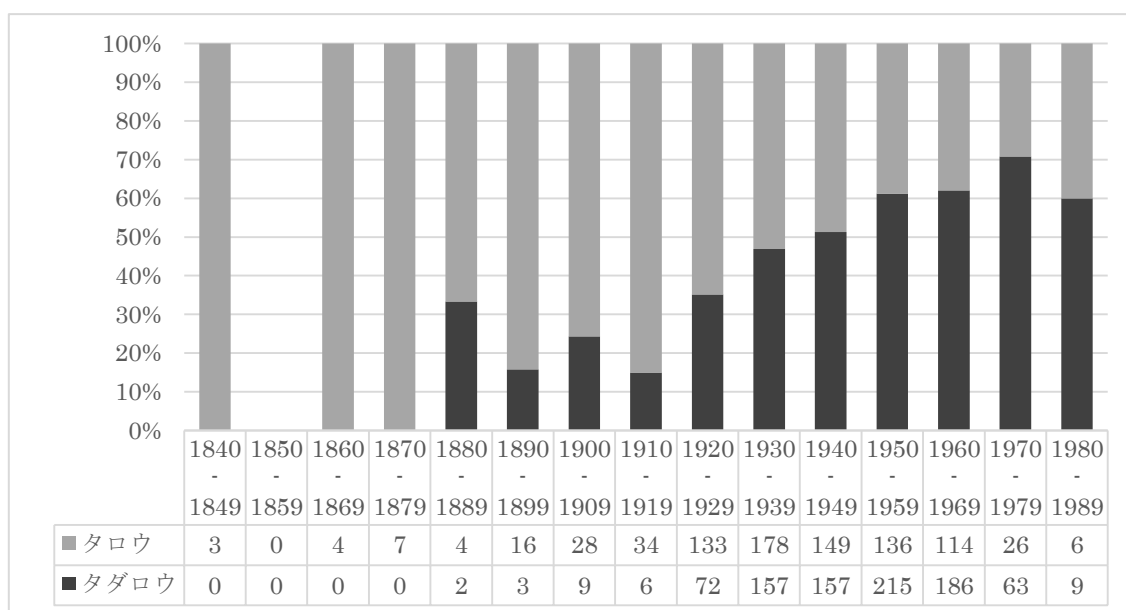


図2 BCCWJの文学作品における「～タロウ」「～タダロウ」の経年変化⁶

以上、経年変化について結論Ⅲとしてまとめる。

結論Ⅲ 経年変化について

〈1840年～1879年〉「～タロウ」だけ確認できた。

〈1880年～1939年〉「～タダロウ」が現れたが、「～タロウ」のほうが多数である。

〈1940年～1989年〉「～タダロウ」が「～タロウ」を超えて多数になるが、「～タロウ」も使われ続けている。

6. おわりに

本稿は、BCCWJの文学作品を対象に、過去推量形「～タロウ」と「～タダロウ」の使用実態を調査した。結果的に、前掲結論Ⅰ～Ⅲが得られた。

しかし、考察するにあたって、分析対象がBCCWJにおける文学作品に限られたため、全体的に把握するには文章のジャンルや年代を広げて考察する必要があると思われる。また、傾向が見られた部分では、どういう理由が考えられるかについての考察も望まれる。これらを今後の課題としたい。

参考文献

- 浅川哲也・竹部歩美（2014）『歴史的变化から理解する現代日本語文法』おうふう
 沖森卓也（編）（2010）『日本語史概説』朝倉書店

⁶ 生年代が複数（執筆者が複数）の用例は含まれていない。

- 沖森卓也 (2017) 『日本語全史』ちくま新書
- 白岩広行 (2015) 「推量形式の用法の通時変化について—江戸・東京の文芸資料をもとに—」
『上越教育大学国語研究』(29), pp.60-49, 上越教育大学国語教育学会
- 白岩広行 (2016) 「確認要求は増えているか—江戸・東京の推量形式を中心に」『上越教育大
学国語研究』(30), pp.111-99, 上越教育大学国語教育学会
- 長井香奈子 (2008) 「「う」と「だろう」」『国文学 遠藤邦基教授古稀記念特集』(92),
pp.329-354, 関西大学国文学会
- 仁田義雄・益岡隆志 (編) (1989) 『日本語のモダリティ』くろしお出版
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 仁田義雄・益岡隆志 (編) (2000) 『日本語の文法3 モダリティ』岩波書店
- 日本語記述文法研究会 (編) (2003) 『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』くろしお出版
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部 (編) (2000) 『日本国語大辞典』
小学館
- 日本語文法学会 (編) (2014) 『日本語文法事典』大修館書店
- 三宅知宏 (2010a) 「「推量」と「確認要求」——“ダロウ”をめぐる——」『鶴見大学紀要
第1部日本語・日本文学編』(47), pp.9-55, 鶴見大学
- 三宅知宏 (2010b) 「「不定推量」と「質問表現」——“ダロウ”をめぐるⅡ——」『鶴見大
学紀要 第1部日本語・日本文学編』(47), pp.57-75, 鶴見大学

使用データ

現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ (最終検索日: 2019年10月2日)

(埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程)

句に下接する「くさい」について

—アンケート調査に基づいた「ぽい」との比較を通して—

大上 紗弥

【キーワード】

句接続、くさい、ぽい、二重推量、年代別許容度、前接する要素、接尾辞の助動詞化

【要旨】

「くさい」は通常、形容詞や接尾辞として用いられるが、近年では句に接続する用法が出現・増加している。本稿では、「ぽい」と比較しつつ「句接続のくさい」の意味拡張、許容度、前接する要素の性質、使用実態などをアンケート調査の結果を基に論じる。まず、回答者による句接続の例文評価から、句接続用法の「くさい」「ぽい」ともに二重推量での使用には違和感があること、年齢層が上がるにつれて許容度が低くなることの二点を示す。次に、前接する要素について、「ぽい」は左右されないが、「くさい」はその要素がプラスの意味を持つ場合に不自然さが増すということを指摘する。句接続の用法に関して、「ぽい」は使用する人や場面が適していれば許容されるが、「くさい」は間違った日本語として捉えられていることが確認できる。最後に接尾辞の助動詞化という面で体系的に整理し、「ぽい」は助動詞として定着する手前である一方、「くさい」は年代により許容度に偏りがある未定着の用法であると結論づける。

1. はじめに

「くさい」という言葉は、一般的に「くさい食べ物」のような形容詞用法と「古くさい」のような形容詞接尾辞用法とに分けられており、日本国語大辞典第二版においても形容詞と接尾の記載のみである。特に、接尾辞用法としてはV連用形、また、体現に後続する使い方が一般的とされていた。しかし、近年では下記のような「句に接続するくさい」の使われ方が見られる。(下線は筆者による。以下同様。)

- (1) ブレスレットマジで失くしたくさい、家の中探してもどこにも無い
どっかで落とした可能性高い (twitter.com)
- (2) なんか県道事故ってるくさいな (twitter.com)

こうした、新しい句に接続する用法を本稿では「句接続のくさい」と称する。

これは、「らしい」「みたい」「ようだ」「ぼい」においても見られる、「助動詞化」の用法とみなすことができる。中でも、近年この用法が定着したのが「ぼい」であり、「句接続のくさい」を研究するうえで比較し参考にするべき語と考えられる。「句接続のぼい」の研究に比べると「句接続のくさい」に関する研究は少なく、その研究方法も文献調査に留まっている。そのため、内省的な調査を行い、「句接続のくさい」の定着度や共起する要素などについて深掘りしていく必要がある。

本稿では具体的には、成り立ちや用法に近い「句接続のぼい」と比較しつつ、アンケート調査を軸に「句接続のくさい」の使用実態を明らかにしていく。

2. 先行研究

「ぼい」についての先行研究は小出（2005）と岩崎（2011）、「くさい」に関する先行研究は岩崎（2016）がそれぞれ挙げられる。

小出（2005）では、「ぼい」を旧用法と新用法に分け、意味拡張の経路を整理している。小出（2005:2）によれば、「ぼい」の最も進んだ形は次の例文のような、推量を二重化することで直接的な表現を保留したものとある。

(3) 新潟で馬単 43 万円が出たらしいぼい。小出（2005:1）

句接続の用法に関しては、「ぼい」の方が「くさい」よりも浸透していると予測され、「ぼい」の最も進んだ形とされる推量を二重化して直接性を避ける用法は、「くさい」と共に用いると違和感が生じてしまうと考えられる。しかし、実際「くさい」の用法の意味拡張の到達点に関する客観的な論証は無く、調査の余地がある。

岩崎（2011）は、「ぼい」の意味用法と展開を通時的に調査・整理しており、下記の例のような用法に注目している。

(4) 最近中二になって彼女ができたぼいのにまだまだあどけない。岩崎（2011:83）

(5) どうやら明日は雨ぼい。岩崎（2011:83）

(4) や (5) の例は、名詞や形容詞が前接して人やモノの性格・性質を表すものとは異なり、ある状況を踏まえて話者の判断を表す用法で、昭和の終わり頃に成立するとされている（岩崎 2011:83）。この話者の判断や推測を表す用法には、名詞や形容詞接続のほかに、本稿の研究対象となる「句接続のぼい」も含まれている。「句接続のくさい・ぼい」どちらも、元々は無い用法であるが故、若い世代での許容度がより高いと考えられる。しかし、岩崎（2011）の結論に従えば、2019 年現在の 40 代以上でも「句接続のぼい」は許容されるのではないかという予測ができる。

岩崎（2016）では、「くさい」についての通時的な考察・分類がされており、特にも推量的判断の「くさい」に焦点を当てている。そうした判断や推量に関する用法に句接続

も含まれ、大正期・昭和期半ば・平成と長期的な出現をしていることが明らかとなっている。このことから、先述した「句接続のぼい」同様若い世代のみならず幅広い世代に認識、許容されていても疑問はないと言えよう。

先行研究の内容を基に、以下の二点に着目し調査を進めていく。

第一に、「句接続のくさい」の現段階での変遷の到達点である。まずは句に接続する用法は許容されるのか、そして、推量の二重化 (ex. ～みたいくさい、～らしいくさい) の用法まで到達しているのかを調査する。第二に、年代別にみた「句接続のくさい・ぼい」に対する許容度の差の有無である。岩崎 (2011)、岩崎 (2016) の調査結果によれば、どちらも昭和期半ばから終わり頃には成立している。この結果から 40 代以上の世代でも許容されると予想できるため、その実態を明らかにする。

以上の二点を踏まえ、具体的にはコーパスとアンケートを用いた調査をした。まず、「くさい」「ぼい」の使用実態を明らかにするために、現代日本語書き言葉均衡コーパス (以下 BCCWJ)、日本語話し言葉コーパス (以下 CSJ)、名大会話コーパス、筑波ウェブコーパスの四つを用いたコーパス調査を行った。次に日本人を対象としたアンケート調査を行った。

3. コーパス調査の結果と考察

BCCWJは約1億語からなる書き言葉のコーパスであり、書き言葉における用法の定着度を見るのに適している。これに対し、CSJは独話や講義などの音声を大量に収集したコーパスであるため、話し言葉における定着度を見るのが可能である。ただし、BCCWJとCSJのどちらも堅い場面での使用を基にしたデータが多いため、日常的な話し言葉が見られる名大会話コーパスやネット上での使用に注目できる筑波ウェブコーパスも併せて調査する必要があった。

BCCWJ、CSJ、名大会話コーパスに関しては、語彙素「臭い」と書字出現形「ぼい」で検索した。筑波ウェブコーパスに関しては、検索結果が共起する品詞ごとに項目分けされており、本稿では語尾として機能する「助詞」「助動詞」が後続するものを句接続用法が出現しやすいと予測し調査した。調査結果をまとめると表1の通りである。

表1 コーパス調査の結果¹

	BCCWJ		CSJ		名大会話	
	くさい	ぼい	くさい	ぼい	くさい	ぼい
用例数	3,181(3,461)	5,572(5,968)	181(184)	250(255)	174(175)	201(203)
出現数	1	118	0	4	0	17
割合	0.03%	2.1%	0.0%	1.6%	0.0%	8.5%

¹ ()の中の数字はゴミも含めた、検索ヒット数。出現数とは、「句接続用法」の出現数のことである。

	筑波ウェブ			
	臭い+助詞	ぼい+助詞	臭い+助動詞	ぼい+助動詞
用例数	3,429(3,596)	303(2,136)	995(1,072)	222(729)
出現数	8	20	1	1
割合	0.2%	6.6%	0.1%	2.7%

表1の数値から見てとれるよう、全体的にその出現数は少ないが、おおむね「ぼい」の方が出現数が多いということは、「句接続のくさい」よりも「句接続のぼい」の方がより定着度が高いと言える。また、BCCWJでYahoo!関連での出現が多かったことや、そのほかの「句接続」用法の使われ方を考えると、口語的な使用場面で出現する傾向が高いと言えよう。ただし、BCCWJのYahoo!知恵袋・Yahoo!ブログというジャンルは2008年のみ、名大会話コーパスは2001年～2003年とデータの収集時期にも偏りがあるため、「句接続のくさい・ぼい」の性質について結果づけることはできない。「くさい」「ぼい」の使用実態を明らかにするためには実際のアンケート調査の必要性が認められる。

4. アンケート調査の結果と考察

アンケートには出題・回答・拡散のしやすさからGoogleフォームを採用し、「句接続のくさい」「句接続のぼい」それぞれ同じ様式で出題した。句接続用法の例文評価の出題に使用した例文は先行研究や実例をもとにした筆者による作例であり、「くさい」「ぼい」に前接する要素はプラスかマイナスの意味を持つ、普通体・可能形・受身形・使役形のどれかで構成されている。出題する際には、その要素がランダムに並び、「くさい」と「ぼい」それぞれのアンケートにおいて順番が同じにならないよう設定した。

4-1 属性

「句接続のくさい」「句接続のぼい」それぞれのアンケート冒頭において回答者の年齢と性別を調査した。結果は表2表3の通りである。

表2 各アンケート回答者の年齢

	くさい	ぼい
10代	7(6.9%)	4(4.3%)
20代	59(57.8%)	41(44.6%)
30代	7(6.9%)	11(12.0%)
40代	9(8.8%)	11(12.0%)
50代	18(17.6%)	23(25.0%)
60代以上	2(2.0%)	2(2.2%)
計	102(100%)	92(100%)

表3 各アンケート回答者の性別

	くさい	ぼい
男	40(39.2%)	42(45.7%)
女	62(45.7%)	50(54.3%)
計	102(100%)	92(100%)

4-2 年代別に見た「句接続のくさい」「句接続のぼい」に対する許容度

句接続用法を用いた例文を提示し、それを回答者が五段階で評価する設問もあり、「くさい」「ぼい」それぞれの年代別回答結果は以下の図1図2のようになった。

<p>I) 全年代で否定派が多い例</p> <p>【2】 欲しかったゲーム売り切れて買えないくさい。</p> <p>【4】 明日ようやく晴れるくさい。</p> <p>【5】 修学旅行から帰ってきたら作文書かされるみたいくさい。</p> <p>【7】 あいつ、クリスマスにサプライズで彼女喜ませるくさい。</p> <p>【8】 もう病気治ったから好きなもの食べられるくさい。</p> <p>【11】 東京で宝くじ1等が出たらしくさい。</p>
<p>II) 年代によって評価が分かれる例</p> <p>【1】 日本代表、オーストラリアに勝たたくさい。 + {20代, 30代} - {10代, 40代, 50代, 60代以上} ± {該当なし}</p> <p>【3】 仕事ぶりが良かったから次のプロジェクト任されるくさい。 + {20代} - {10代, 30代, 40代, 50代, 60代以上} ± {該当なし}</p> <p>【6】 職場トラブってるくさい。 + {20代, 30代, 40代} - {10代, 50代} ± {60代以上}</p> <p>【9】 今日行かないと怒られるくさい。 + {10代, 20代, 40代} - {50代} ± {30代, 60代以上}</p> <p>【10】 今日の試合、阪神負けたくさい。 + {20代, 30代, 40代} - {10代, 50代} ± {60代以上}</p> <p>【12】 先生はバツとして彼に掃除をやらせるくさい。 + {30代} - {10代, 20代, 50代, 60代以上} ± {40代}</p> <p>【13】 彼氏とのデート楽しんでるくさい。 + {該当なし} - {10代, 20代, 40代, 50代, 60代} ± {30代}</p> <p>【14】 結構寒い。今日の夜、雨が降るくさい。 + {10代, 20代, 40代} - {30代, 50代, 60代以上} ± {該当なし}</p>

図1 「句接続のくさい」年代別評価結果²

<p>III) 全年代で否定派が多い例</p> <p>【1】 東京で宝くじ1等が出たらしくさい。</p>
<p>IV) 年代によって評価が分かれる例</p> <p>【1】 日本代表、オーストラリアに勝ったつぼい。 + {10代, 20代, 30代, 40代} - {60代以上} ± {50代}</p> <p>【2】 欲しかったゲーム売り切れて買えないつぼい。 + {10代, 20代, 30代, 40代, 60代以上} - {50代} ± {該当なし}</p> <p>【3】 仕事ぶりが良かったから次のプロジェクト任されるつぼい。 + {10代, 20代, 30代, 60代} - {50代} ± {40代}</p> <p>【4】 明日ようやく晴れるつぼい。 + {10代, 20代, 30代} - {40代, 50代} ± {60代以上}</p> <p>【5】 修学旅行から帰ってきたら作文書かされるみたいつぼい。 + {60代以上} - {10代, 20代, 30代, 40代, 50代} ± {該当なし}</p> <p>【6】 職場トラブってるつぼい。 + {10代, 20代, 30代, 40代} - {50代} ± {60代以上}</p> <p>【7】 あいつ、クリスマスにサプライズで彼女喜ませるつぼい。 + {10代} - {20代, 40代, 50代} ± {30代, 60代以上}</p> <p>【8】 もう病気治ったから好きなもの食べられるつぼい。 + {10代, 20代, 30代, 60代以上} - {40代, 50代} ± {該当なし}</p> <p>【9】 今日行かないと怒られるつぼい。 + {10代, 20代, 30代} - {40代, 50代, 60代以上} ± {該当なし}</p> <p>【10】 今日の試合、阪神負けつぼい。 + {10代, 20代, 30代, 40代, 60代以上} - {50代} ± {該当なし}</p> <p>【12】 先生はバツとして彼に掃除をやらせるつぼい。 + {10代, 20代, 30代} - {40代, 50代, 60代以上} ± {該当なし}</p> <p>【13】 彼氏とのデート楽しんでるつぼい。 + {10代, 20代, 30代, 60代以上} - {40代, 50代} ± {該当なし}</p> <p>【14】 結構寒い。今日の夜、雨が降るつぼい。 + {10代, 20代, 30代, 50代} - {40代} ± {60代以上}</p>

図2 「句接続のぼい」年代別評価結果

² 肯定派は「+」、否定派は「-」、中立は「±」と表記。

まず、「句接続のくさい」に関しては最も許容度が高いのは20代、低いのは50代という結果になった。20代は全14例のうち6例において肯定派が否定派を上回ったのに対し、50代は全て否定派が多くなった。そのほかの年代において肯定派が上回った例文数は、10代が2例、30代と40代が4例と、若者ほど許容度が高まると思われたが、それに反する結果となった。

「句接続のぼい」に関しては、二重推量の例は年代関係なく許容されない。そのほかの例文については【7】を除いたすべての例で10代～30代は肯定派が多くなっている。一方、40代～60代以上は否定派か中立が多く、年齢層が上がるにつれて許容度が低くなる傾向が見られた。特に50代での肯定派は【14】のみでそのほかは否定派である。

岩崎(2011)と岩崎(2016)をもとに、幅広い年齢で許容されるのではという予測が立てられたが、「句接続のくさい・ぼい」ともに、年齢層が高いほどその許容度が低く、句接続用法は主に若年層に定着していると考えて差し支えなかろう。特に、「句接続のくさい」では年代ごとにかなりその評価にばらつきが出ていたのに対し、「句接続のぼい」は10代～30代は肯定派、40代～60代は否定派か中立という構造がほぼ確立していたため、その傾向が強いと言える。また、「句接続のくさい」に関しては、10代の許容度が低い理由となる新たな表現の有無や、20代に限られた流行的な使用なのかどうかにも注目する必要がある。ただし、今回の調査では回答者数に偏りがあるため、より大規模な調査による検証が求められる。

4-3 前接する要素について

例文評価の結果を踏まえ、大きく二つの点に注目した。まず、「前接の要素がプラスかマイナスか」である。「くさい」は嫌なにおいがするという意味の形容詞ではもちろんのこと、古くさいや水くさいといった接尾辞として使われる際もマイナスの意味を持つことが多い。そのため、前接する要素がマイナスの意味を持つ例のほうが許容されやすいのではという予測を立てることができる。一方で、「ぼい」はそのような傾向はないため、意味のプラス・マイナスでどのような違いが生まれるのか、上記の予測と併せて調査する。もう一つは「動詞の態と時制」であり、その違いによって評価に差が出るのか考察する。結果と注目する二点を照らし合わせ、まとめたものが図3である。

なお、前接する要素の意味がプラスの場合は+、マイナスの場合は-が例文の後に記されている。また、動詞の形と時制も同様に記しており、未実現の意味を持つ例には*が付け加えられている。

<p>i) 「句接続のくさい」では否定派が、「句接続のぼい」では肯定派が多い例</p> <p>【1】日本代表、オーストラリアに勝った(くさい/ぼい)。+ 普通・過去</p> <p>【2】欲しかったゲーム売り切れで買えない(くさい/ぼい)。- 可能・現在</p> <p>【3】仕事ぶりが良かったから次のプロジェクト任される(くさい/ぼい)。 + 受身・現在*</p> <p>【4】明日ようやく晴れる(くさい/ぼい)。+ 普通・現在*</p> <p>【12】先生はバツとして彼に掃除をやらせる(くさい/ぼい)。- 使役・現在*</p> <p>【13】彼氏とのデート楽しんでる(くさい/ぼい)。+ 普通・現在進行</p> <p>【14】結構寒い。今日の夜は雨が降る(くさい/ぼい)。- 普通・現在*</p>
<p>ii) どちらも肯定派が多い例</p> <p>【6】職場トラブってる(くさい/ぼい)。- 普通・現在進行</p> <p>【9】今日行かないと怒られる(くさい/ぼい)。- 受身・現在*</p> <p>【10】今日の試合、阪神負けた(くさい/ぼい)。- 普通・過去</p>
<p>iii) どちらも否定派が多い例</p> <p>【5】修学旅行から帰ってきたら作文書かされるみたい(くさい/ぼい)。</p> <p>【7】あいつ、クリスマスにサプライズで彼女を喜ばせる(くさい/ぼい)。 + 使役・現在*</p> <p>【8】もう病気治ったから好きなもの食べられる(くさい/ぼい)。+ 可能・現在</p> <p>【11】東京で宝くじ1等が出たらしい(くさい/ぼい)。</p>

図3 例文評価結果と前接する要素

4-3-1 前接する要素がプラスかマイナスか

「句接続のぼい」において否定派が肯定派を上回る例は【5】【7】【8】【11】の4例である。【5】【11】については二重推量であったために否定派が多くなった。一方、【7】【8】に関しては文の長さや主語の曖昧さ³といった点から否定派が増えた。そのため、これら4例は句接続用法ではない他の部分で不自然さを感じ取られたということになる。以上の考察とそのほかの例文で肯定派が多くなっていることを踏まえると、「句接続のぼい」は前接する要素の意味によってその評価が左右されないと見えよう。

一方、「句接続のくさい」はそのほとんどの例で否定派であり、前接する要素がプラスの意味を持つ例はすべて否定派、マイナスの意味を持つ例は3例【2】【12】【14】を除いて肯定派が多くなっていた。これには、「くさい」が持つ元々の意味が深く関係していると推測する。前述したように、「くさい」は「嫌なにおいがする」「大げさである」「疑わしい」といったマイナスイメージの強い用法が元から存在している。それ故、前接する要素がプラスの意味を持っていると、「くさい」を使っているのに文はプラスの意という矛盾が生まれるため、不自然と感じる人が多かったのではないだろうか。

また、前接する要素がマイナスの意味であるにもかかわらず、否定派が多くなってし

³ 【7】は主語・時・修飾・目的・動詞と文の要素が多くなったが故、文の長さが出てしまい、それが不自然さを増す結果となった。【8】は主語が自分なのか他人なのか曖昧だったため、回答に影響が出た。

まった3例【2】【12】【14】は、肯定派が多かった3例【6】【9】【10】よりも若干複雑で文章が長めであり、マイナスイメージがほかの3例よりも思い浮かびにくいがために、否定派が多かったと推測される。

4-3-2 動詞の態と時制

「句接続のぼい」で否定派が多かったのは4-3-1と同じく【5】【7】【8】【11】のみであるため、動詞の体や時制によってその評価は左右されないと考えよう。

一方「くさい」は【6】【9】【10】を除いたすべての例文で否定派が多くなった。時制に関して言えば、肯定派が多かった3例は未実現【9】、現在進行形【6】、過去【10】全ての時制が含まれており、「句接続のくさい」において前接する動詞の時制に左右されないという可能性も考えられる。しかし、ほとんどが否定派になっているため、動詞の態や時制よりかはそもそもの定着度が影響していると考えの方が妥当であろう。

4-4 使用実態・語感・使用場面

アンケートの最後に、「句接続のくさい」「句接続のぼい」の使用実態について、「使用するし、見聞きしたこともある」「使用したことはないが、見聞きしたことはある」「使用したことも見聞きしたこともない」の三択で出題した。結果は表4の通りである。その後、「使用するし、見聞きしたこともある」「使用したことはないが、見聞きしたことはある」の回答者それぞれに、どういった場面で「句接続用法」と接触するのかについて問うた。その結果はそれぞれ、「句接続のくさい」は表5、「句接続のぼい」は表6のような結果となった。

表4 各用法の使用実態

	使用するし、見聞きしたこともある	使用したことはないが、見聞きしたことはある	使用したことも、見聞きしたこともない	計
くさい	41(40.2%)	45(44.1%)	16(15.7%)	102(100%)
ぼい	71(77.2%)	20(21.7%)	1(1.0%)	92(100%)

表5 「句接続のくさい」の使用・見聞きの場面（複数回答可）

	友人との会話	家族との会話	目上の人との会話	インターネット上での書き込み	テレビやネット上の動画
使用するし、見聞きしたこともある	39	33	3	7	3
使用したことはないが、見聞きしたことはある	27	4	3	13	12

表6 「句接続のぼい」の使用・見聞きの場面（複数回答可）

	友人との 会話	家族との 会話	目上の人との 会話	インターネット 上での書き込み	テレビやネット 上の動画
使用するし、見聞きした こともある	69	53	8	30	25
使用したことはないが、 見聞きしたことはある	10	7	0	3	8

使用実態に関するアンケートでは、「句接続のくさい」は使用と見聞き、見聞きのみが同じ位の値だったのに対し、「句接続のぼい」は使用と見聞きが非常に多く、その定着度が明確に現れる結果となった。しかし、「句接続のくさい」も使用や見聞きが少ないわけではなく、定着の途中段階にあると考えられる。

また、アンケートの自由記述から、以下のような、回答者の「句接続のくさい・ぼい」に対する意見を得ることができ、「句接続のくさい」については、以下のような不適切な日本語と捉える意見や、使用の抵抗感・頻度の低さがうかがえる意見が見られた。

「正式なものではないイメージがある」 30代・女性・埼玉県

「改めて考えると日本語を間違っているというような感覚なので、あまり使わないようにしたいとおもった」 20代・男性・茨城県

「周囲では聞いたことが無いが知っているの、文章や漫画などからの知識かと思えます」 30代・男性・千葉県

一方、「句接続のぼい」に関しては、用法自体を否定する意見は少なく、親しげな会話や若者同士などといった条件の下では許容するという考えが多く見られた。

「親しい人同士での会話なら使うけど、目上の人と話すときやビジネスシーンでは使えない」 20代・女性・岩手県

「日本語として違和感は否めない。が、若者の友人同士での会話なら成り立つと思う」 40代・女性・埼玉県

「使ってはいけないと言われているわけではないが、あまり好んで用いようとしていない、むしろ目上の方や初対面の人の前では他の表現を使おうとするくらいの感覚を持っています」 20代・男性・千葉県

未だ違和感を覚える人は一定数いるようであるが、日本語の一言一回しとして確立していると言えるのではないだろうか。

これに対して「句接続のくさい」の許容度は低いものの、以下のような意見もあった

ため、これから使用の広がりを見せていくのではないかと推測する。

「Youtuber (東海オンエア) で使われてたのでこの使い方を知りました」 20代・女性・熊本
「これからますます使われると思います」 40代・男性・岩手県

なお、使用場面に関しては、「句接続のくさい」「句接続のぼい」共に友人や家族との会話というフランクな場面やネットやテレビなどで使用され、目上の人との会話という堅い場面では使われない。また、「句接続のくさい」に関しては見聞きのみでネットやテレビで確認している割合が多く、これから SNS やメディアを通じて展開していくのではないだろうか。

4-5 小出(2005)における「ぼい」と比較した「くさい」の意味拡張

アンケートでは、2節で紹介したような二重推量を用いた例文も出題し、小出(2005)が述べているように「ぼい」においてこの形が許容されるのか、そして「くさい」ではその許容度はどのような結果になるのかについて調査した。調査文は次の2例である。

- (6) 「修学旅行から帰ってきたら作文書かされるみたい(くさい/ぼい)」(アンケート【5】)
- (7) 「東京で宝くじ1等が出たらしい(くさい/ぼい)」(アンケート【11】)

結果は、2例とも「句接続のくさい」「句接続のぼい」両方において不自然と感じる否定派のほうが肯定派を上回った。「句接続のくさい」では、この二重推量の形だと否定派がどちらの例でも9割を超え、否定派の割合が多い上位2例となり、ほぼ許容されていないことが分かった。さらに、「句接続のぼい」に関しても、否定派が7~8割を超える結果になった。「句接続のくさい」と比較すると、「句接続のぼい」で若干肯定派が増加したものの、否定派との差は大きく、二重推量の「ぼい」の許容度もあまり高くないことが明らかになった。実際、例文評価の後の自由記述において、次のような否定的な意見が多く見られ、推量の意味を持つ語が二つ連続して使われていることに違和感を覚える人が多かったようだ。

- 「みたいとくさい、両方はいらない」 20代・女性・福岡県
- 「らしいと同時に使わないです」(くさい) 20代・男性・兵庫県
- 「推測が重複していて耳障りな印象」(くさい) 50代・男性・埼玉県
- 「らしいにっぼいはつけない」 40代・女性・埼玉県
- 「みたい+っぼい は変です」 30代・女性・石川県
- 「意味が重複してるように感じます」(ぼい) 20代。男性・滋賀県

一方、「句接続のぼい」では肯定派が1~2割ほどいるため、小出(2005)の定義は否

定できないが、その定着度はまだまだ低だろう。加えて、この用法は「句接続のくさい」においては定着していないと見ることができよう。

5. 接尾辞の助動詞化について

助動詞用法としての「らしい」「ようだ」「みたい」「そうだ」はすでに体系を成しており、日本語の表現として定着していることは疑う余地はない。「ぼい」は世代間で差はあるものの、条件付きで許容されるなど、助動詞として定着しつつあると推測される。また、今回研究の主軸となった「くさい」は若者の間でのみ許容されるが、未定着の用法と言えよう。今後広がりを見せていくかどうかについては、継続的な調査が求められよう。一方、「～げ」「～み」については図4のような用法が新たに確認できる。



図4 「～げ」「～み」の実例 (Twitterより)

これらの「～げ」や「～み」は若者が新奇な表現を含むことによる一過性のものである可能性が高いと推測される。以上の内容を図示すれば、図5となる。

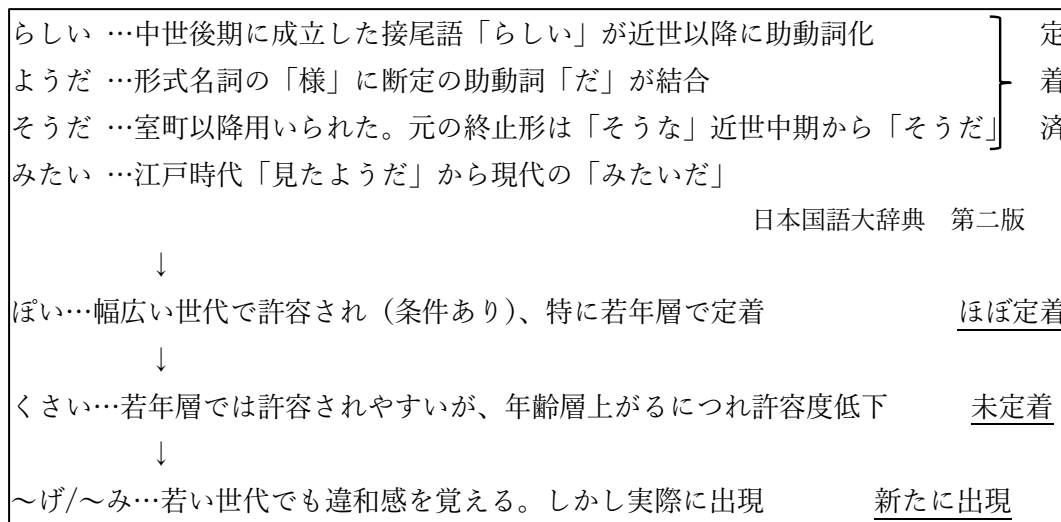


図5 接尾辞の助動詞化の展開

6. まとめと今後の課題

本稿では、「句接続のくさい」「句接続のぼい」の許容度・成立条件・使用実態などに焦点を当てながら調査し、結論として「ぼい」は助動詞として定着する一歩手前にあること、「くさい」は助動詞としては未定着であることを指摘した。

課題としては、まず、より大規模な調査をすることで均等な回答者数を得ることが挙げられる。それにより、4-2 節で述べたような 20 代の間で爆発的に許容されているのではといった推測も検証可能となる。次に、アンケートの様式である。不要な語や、主語の曖昧さが影響し回答者が不自然と感じた例文があったため、文をより明確にすることが求められる。また、句接続用法を使ったことはあるが、実際に読むと不自然という意見もあったため、句接続用法を含む会話モデルの聞き取りや会話文の提示といった方法を取ることを今後視野に入れる必要があるだろう。さらに、今回は筆者の作例によるアンケート調査が主軸となったが、Twitter などに出現している実例を収集・調査していくことも今後の課題としたい。

参考文献

- 岩崎真梨子 (2011) 「「ーぼい」の意味用法と展開」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』 31, pp.83-96, 岡山大学大学院社会文化科学研究科.
- 岩崎真梨子 (2016) 「接辞「ーくさい」の推量的判断に関する一考察」『岡大文論稿』 44, pp.60-43, 岡山大学文学部言語国語国文学会.
- 小出慶一 (2005) 「接辞「〜ぼい」の用法の広がりー「雪が降るっぼい」という表現はどのように成立したかー」『群馬県立女子大学紀要』 26, pp.1-13, 群馬県立女子大学.
- 建石始 (2018) 「類義語分析のためのチェックリスト」岩田一成 (編)『現場に役立つ日本語教育研究 6 語から始まる教材作り』 pp.45-58, くろしお出版.
- 豊田秀樹 (2015) 『紙を使わないアンケート調査入門』東京図書.
- 堀尾佳以 (2015) 『若者言葉にみられる言語変化に関する研究』九州大学博士論文.
- 山下喜代 (1995) 「形容詞接尾辞「ーぼい・ーらしい・ーくさい」について」『講座日本語教育』 30, pp.183-206, 早稲田大学日本語研究教育センター.

用例出典

- 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」中納言 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>
- 「コーパス」大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立国語研究所 (NINJAL)
- <https://www.ninjal.ac.jp/database/type/corpora/>
- 「筑波ウェブコーパス」筑波大学 日本語・日本事情遠隔教育拠点
- <http://www.intersec.tsukuba.ac.jp/~kyoten/twc.html>
- 『日本国語大辞典』第二版 小学館国語辞典編集部編 小学館 2001年.

(埼玉大学教養学部日本・アジア文化専攻課程日本文化専攻)

現代短歌における二重表記の役割

—日本語学的見地から—

清水 恵理

【キーワード】

二重表記、振り仮名、ルビ、現代短歌、表記表現

【要旨】

日本語表記の特徴の一つに多様な二重表記があり「兵隊」「啓発本」のように本文である主表記、振り仮名である副表記の間に意味の異なりがある用例が現代短歌において見られる。本研究で独自に設定した「現代短歌の二重表記分類」を用いて分析した結果、以下が明らかになった。

- 1) 代名詞を用いた二重表記使用率の低さ
- 2) 新奇性の高い二重表記の役割の拡充（本分類 1 限定〈1-2 記号〉・5 相補・6 比喻）
- 3) 男性作者によって新奇性の高い二重表記が牽引されている可能性

現代短歌において、これまで研究されてきていない表記表現の一種として多様な二重表記が隆盛していることが明らかになり、今後二重表記の役割は拡充していく可能性が高いという結論に至った。

1. はじめに

二重表記¹は、難読漢字や固有名詞の読みを示すほかに、(1)のように二種以上の読みを持つ漢字の読み方を副表記に示すものが多い。一方で現代短歌では、(2)のような特殊な読みを示す例がみられるようになってきた。

- (1) 営業車走らず一日彼方には夏雲が描く腕の素描 天道なお『NR』

¹ 本研究では、泉（1993）「二重表記」の定義に倣い、以下の二つの条件のいずれかを満たすものを二重表記と定義する（1993:96）。1「短歌(たんか)」のように語形を()の中に示すもの、2「短歌^{たんか}」のように語形を振り仮名で示すもの、以上 1、2の本文に当たる「短歌」を「主表記」、1「(たんか)」2「^{たんか}」を「副表記」と記す。本研究では、一般的に「振り仮名」「ルビ」と呼ばれる読み部分のみではなく、本文でもある主表記を含め、同等に注視する必要があると考えたため、泉（1993）の定義を採用した。

(2) ひとりでも嬉しい夜は兵^{トランプ}隊を灯りの下で整列させて

原田彩加『黄色いボート』

(2)は主表記「兵隊」の読みが「トランプ」というわけではなく、「トランプ」のカードが模す「兵隊」について二重表記を用いて表現していると考えられる。二重表記を用いることで情報量を増やし、複線的に語のイメージを拡張させる役割を持つ用例が散見されるようになってきた。しかしこのように本来の読み方以外を示す二重表記は研究の余地がある。さらに泉(1993)において、散文に比べ韻文は二重表記使用率が高いことが明らかになっているにも関わらず、現代短歌を対象とした二重表記研究は僅かである。そこで現代短歌における二重表記の実態調査からその機能を整理し、新しい表現技法の一つとして拡充していることを明らかにすることを研究目的とした。

2. 先行研究

二重表記の歴史は長く、通時的な研究や言語体系と表記の関わりについての研究が盛んに行われ、特に文学ジャンルや年代を限定した研究などからはその成果がみられる。二重表記について概観し、時代別・特徴別にまとめているものとして今野(2009, 2013)が挙げられる。ジャンル別に見ると小説を扱った岩淵(1988)、大島(1989)、小説の他諸ジャンルを扱った京極(1981)ではそれぞれ分類を設定し分析を行なっている。漫画では当て字とされる二重表記のみを扱った白勢(2012)があり、本来的な読み以外を示す新奇性の高い二重表記研究を前進させたと言える。また詩歌を研究対象とした先行研究は、佐竹(1993)、泉(1993)が挙げられる。なかでも俳句の表記言語について論じた佐竹(1995)では、新たな表記使用による表現拡大への期待を展望に挙げている。

しかしながら現代短歌の多様な二重表記は、これまでの二重表記分類では網羅できない用例が存在しているのは明らかである。その主な理由として、それらの研究が概ね2000年代以前のものであることが挙げられる。

そこで先行研究を参考に二重表記分類を刷新し、現代の用例に対応した分類項目を設けることを課題の一つとした。文学ジャンルによって二重表記の特徴が異なることは、先行研究から明らかになっている。そこで日本語学的見地から行われることの少なかった現代短歌の二重表記を対象とすることで、二重表記の役割を新たな観点で論じることができると考えた。

3. 調査及び分析結果

3-1 調査資料

資料①「新鋭短歌シリーズ」(書肆侃侃房) 42 歌集

②「現代歌人シリーズ」(書肆侃侃房) 22 歌集

使用実態の調査資料としたのは 2013～2019 年に刊行された「新鋭短歌シリーズ」42 歌集及び「現代歌人シリーズ」22 歌集(書肆侃々房)の計 64 歌集である。①「新鋭短歌シリーズ」は、学生短歌サークルや Twitter をはじめとする SNS などで、個性的な創作活動を行い注目されている作者の個人歌集である。②「現代歌人シリーズ」は、前衛短歌を牽引してきたと評価される歌人、またはポスト・ニューウェーブ歌人と評価されている作者の個人歌集である。本研究で注目する特殊な二重表記は、新たな表現方法を積極的に試みていると評価されている上記シリーズに豊富に収録されていると考え調査対象とした。

3-2 分析方法

二重表記の用例を分析するにあたり分類項目が必要であったが、先行研究の分類は、研究対象や除外条件や文芸ジャンルの特徴の違いから用例を網羅することが困難であった。そこで先行研究を参考に本研究独自の現代短歌の二重表記分類を設定し、分類ごとの特徴を分析した。用例分析には、表 1「現代短歌の二重表記分類」を用いる。

なお使用が一般的であり、主表記の読み方を指定するが特殊ではない分類、1 限定、2 翻訳をまとめ〈読みとしての二重表記〉とし、本来的な読み方とは異なり表記に表現意図がある分類、3 代名詞、4 説明、5 相補、6 比喩をまとめ〈表現としての二重表記〉として区別する。本研究で注視するのは後者である。ただし詩歌で使用されることの多い自然物、地名などの固有名詞のなかで、難読漢字の読みを示す二重表記については、本稿の目的から外れるため調査対象から除く。

表 1 現代短歌の二重表記分類

分類	二重表記の役割	例	下位分類：用例
1 限定	副表記が主表記の読みを限定する	ケン 犬	ひとひ 1-1 限定: 「一日」 イコール 1-2 記号: 「 = 」
2 翻訳	主表記の和語英訳等を副表記に示す	ドッグ 犬	シスター 「修道女」
3 代名詞	代名詞で主表記を指す	おまえ 犬	きみ 「妹」
4 説明	主表記が副表記の具体性を示し説明する	わんこ 犬	とき 「時間」
5 相補	相互に語の表現を補い合う	うちのこ 犬	ベストセラー 「啓発本」
6 比喩	「～のような～」の関係で一方を喩える	モップ 犬	まなこ 「惑星」

■1 限定

1 限定は、今野(2009:52)「二つの読みを持つ漢字」を参考に設定した。二種類以上の読みが存在する主表記に対して、その読み方を副表記に示すものである。また先行研究にて分類が存在しなかった記号に対する読みを示す二重表記も収集されたため、下位分類〈1-1 限定〉〈1-2 記号〉を設けた。

■1 限定〈1-1 限定〉 副表記が主表記の読みを限定するが、読み方は特殊ではない。

- (3) 明日から、いや、たった今、成績を飲み下したらもう夏休み

千葉聡『海、悲歌、夏の雫など』

■1 限定〈1-2 記号〉 記号の読みを副表記に示す。

- (4) まだ何もない(^{blank})の新しい場所より熱がうまれるきっと 天道なお『NR』

■2 翻訳 主表記の和語英訳等を副表記に示す。

翻訳的な機能を持つ二重表記は今野(2009)、白勢(2012)他、多くの先行研究で分類項目が設けられており、使用は一般的な二重表記であるといえる。

- (5) 街角で突きつけられて飛びのいたナイフじゃなくて聖書^{バイブル}だった

谷川電話『恋人不死身説』

■3 代名詞 副表記に代名詞を用いて主表記を指す。

先行研究で扱われているものも多く、岩淵(1988)では「魔獣」「北岸地峡」など例を挙げて考察を行なっている。また白勢(2012)は、人称代名詞、指示代名詞ともに広く用例が観察できたとし代名詞を用いた二重表記分類について論じている。

- (6) 8ミリのカメラに手をふる^{おれ}美がいたモノクロームのあの夏の日の

笹公人『念力ろまん』

■4 説明 具体的な意味を持つ主表記が、副表記を説明する。

4 説明は、主表記と副表記はともに同一物を想定しており、語自体に結びつきが強いことが条件になる。例を挙げると「父親」など、熟字訓とされるものの多くが含まれることになる。「父親」と「(おやじ)」の二語の読みは異なるが同一物を表していることが想定されており、ともに(+親)(+男性)であるという共通項が認められる。主表記がより具体的な役割を持ち、かつ副表記に対して説明的に機能している二重表記 4 説明に分類した。今野(2009)他多くの先行研究で使用されていることが論じられている。

3-3 分析結果

64 歌集を調査した結果、52 歌集から本調査の対象となる用例 426 例を収集した。また特徴的な二重表記を使用する作者に性差があるかを調査するため男女別の集計を行った。男女の内訳は男性 24 名、女性 28 名である。用例数と作者人数を分類別に集計した結果を表 2 に示す²。

表 2 「分類別集計²表」(総数 426 例, 52 名)

	下位 分類	用例 (男性)	用例 (女性)	用例 (合計)	人数 (男性)	人数 (女性)	人数 (合計)
1 限定	1-1 限定	74	112	186	16	22	38
	1-2 記号	4	6	10	2	4	6
2 翻訳		56	70	126	18	19	37
3 代名詞		1	0	1	1	0	1
4 説明		44	38	82	11	15	26
5 相補		12	2	14	6	1	7
6 比喩		0	2	2	0	2	2
不明		1	4	5	1	2	3
合計		192	234	426	(24 名)	(28 名)	(52 名)

上記結果から〈読みとしての二重表記〉322 例(構成比 76.5%)、〈表現としての二重表記〉99 例(構成比 23.5%)を収集し、使用が一般的である〈読みとしての二重表記〉が 7 割以上を占めていることが明らかになった。また〈表現としての二重表記〉の内、8 割以上を 4 説明が占めており、このような例の使用が顕著に高いことがわかる。次に各分類別の調査結果を踏まえ考察を行う。

■1 限定

全用例 426 例中 196 例(構成比 46%)が 1 限定である。下位分類の内訳は〈1-1 限定〉186 例、〈1-2 記号〉10 例である。〈1-1 限定〉を使用する作者は 52 名中 38 名と多く、男女ともに 7 割を超える作者が使用している。構成比の高さ、作者数、性差の低さから 1 限定は一般的に使用が認められている二重表記であるといえる。先行研究で多く扱われていることに加えて、調査結果からも使用が一般的であると実証された。

² 特殊な二重表記の使用には、作者年齢に影響すると考えられるため作者年齢を含めた調査が妥当であると考えたが、調査で扱うシリーズでは女性歌人 8 名が年齢を公表しておらず、年齢別の調査は困難であったため本研究では性差での調査を行なった。

■1 限定 〈1-1 限定〉

- (11) 営業車走らず一日^{ひとひ}彼方には夏雲が描く腕^{かいな}の素描 天道なお『NR』再掲

用例数が多かった語は、「朝(あした)」8例、「一日(ひとひ)」7例、「眼(まなこ)」7例、「魚(うを)(うお)(ウオ)」7例、「腕(かいな)」3例である。二つ以上の読みの中から、相対的に読まれにくいものが副表記に選択されやすいと考えられる。(11)で「(うで)」を無標の読み方とすると「(かいな)」は、限定する必要がある有標の読み方であるといえる。

■1 限定 〈1-2 記号〉

- (12) まだ何もない^{b¹aⁿk}の新しき場所より熱がうまれるきつと
天道なお『NR』再掲

- (13) ^{大なり}> ^{小なり}でも ^{イコール}= ^{イコール}でもいいは奇跡みたいで怖くなるから
嶋田さくらこ『やさしいぴあの』

(12)は「(かっこ)」と読まれることで字足らずとなることを避ける意図がある。記号に副表記を示す例は珍しく、先行研究で扱われてきていないことから新奇性の高い表記であることがわかる。(13)は漢字・平仮名・片仮名を使用した副表記を示していることが特徴的である。記号による表象が効果的に機能しているといえる。

■2 翻訳

- (14) 仕様^{レビュアー}管理者が仕様^{アーキテクト}総括者が仕様^{オーナー}承認者が日ごとに替わるサイレンが鳴る
堀合昇平『提案前夜』
- (15) 三つのベースに人満ち風に砂が舞ひ打者、野手、客は^{ピッチャー}投手を待つ
惟任将彦『灰色の図書館』

2 翻訳は、126例(構成比29.5%)収集できた。作者別にみると男性18名(79.1%)、女性19名(64.3%)の使用があり、男女ともに半数以上の作者によって使用されていることがわかった。(14)のように理解しやすい外来語が存在し、音数の削減に有効である場合は特に翻訳的役割として二重表記が使用されやすいといえる。(15)「打者」「野手」「投手」ともに野球のポジションを示す同類語であるにもかかわらず、二重表記が振られているのは「投手」のみであることから、音数調整の役割があることは明らかである。

■3 代名詞

(16) 8ミリのカメラに手をふる一美^{おれ}がいたモノクロームのあの夏の日の

笹公人『念力ろまん』再掲

代名詞を扱った例は男性作者による1例のみ収集できた。この作品の解釈については定かではないが、副表記に一人称代名詞を使用することで副表記「(おれ)」が、主表記「一美」を客観的に捉え、切り分けているような印象を与える。代名詞を用いた二重表記の使用は、小説や漫画他の文学ジャンルにおいて多用されていることは先行研究からも疑いの余地がない一方、現代短歌ではあまり使用されていない、もしくは使用されにくいとも考えられる。

■4 説明

4 説明に分類される例が82例(構成比19.2%)あり、1 限定、2 翻訳に次ぐ用例数がある。また4 説明を使用する作者数は全体の約半数の26名で、使用に大きな性差はみられない。先行研究で扱われていることとあわせて本調査の結果からも1 限定、2 翻訳同様、使用が一般的であると十分言えるだろう。しかし4 説明の用例は外延が広いため、考察に際し便宜的に用例を5つのタイプに分ける。まず〈4-1 要素〉〈4-2 包摂〉〈4-3 概念〉については、図1の2つの条件を設けて論じる。

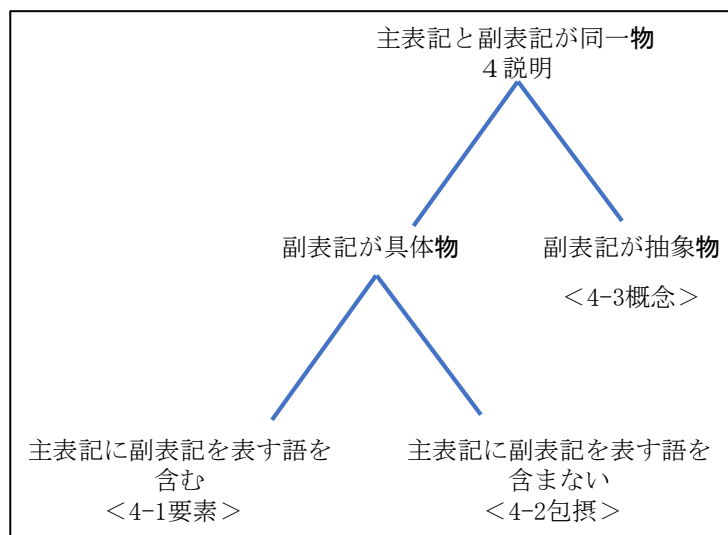


図1 「〈4-1 要素〉 〈4-2 包摂〉 〈4-3 概念〉分類条件」

なお具体物か抽象物かの切分けは、基本的には副表記に示す語に形があるかもしくは触れられるかで判断する。また主表記に副表記をあらわす語を含むか否かについて「桜^{はな}花」と「桜^{はな}」を例にあげると、副表記「(はな)」の漢字を含む「桜^{はな}花」は〈4-1 要素〉、「桜^{はな}」は〈4-2 包摂〉とする。更に〈4-4 略語〉〈4-5 オノマトペ〉を設けた。

■4 説明 〈4-1 要素〉 副表記が具体物かつ主表記に副表記と同じ読みをする漢字が含まれる。

(17) 長椅子の少年達を車^{まど}窓に見てブーフーウーとあだ名をつける

佐藤涼子『Midnight Sun』再掲

(18) 自閉する日々にも秋の降るように惑^{ほし}星は優しく地軸を傾ぐ

法橋ひらく『それはとても速くて永い』

(17)「車^{まど}窓」(18)「惑^{ほし}星」ともに意味範囲の広い和語を副表記に示し、具体的な要素を主表記の漢語で示しているものが多い。

■4 説明 〈4-2 包摂〉³ 副表記が具体物かつ主表記に副表記と同じ読みをする漢字が含まれない。

(19) 揚げいもに唇^{くち}よせて大股でゆくきみの前も後もぼたん雪

雪舟えま『は一は一姫が彼女の王子たちに出逢うまで』

(20) 草花の由来おしえる博^{ひと}士と呑む焼酎にはあかるい故郷見える

陣崎草子『春戦争』

(19)「(くち)」は、意味の範囲が広く曖昧な印象を与えるのに対して、「唇」はより具体的な語である。(20)のように「(ひと)」に対して、属性や職業等を主表記に示す例は珍しくない。

³ 用例を整理する目的から便宜的に表記による分類を行ったため本来、包摂関係となる例（「彼岸^{はな}花」「白^{とり}鳥」など）を〈4-1 要素〉に含むこととなった。そのためこの小分類に関しては、改善の必要がある。

■4 説明 〈4-3 概念〉

(21) びんづめの少女の翅とかみのけは西陽まばゆき^{とき}刻のあのいろ

吉田隼人『忘却のための試論 Un essai pour l'oubli』

(22) ハンカチの振られ具合が暗示する^{きもち}情考へかんがへみねむり

紀野恵『白猫倶楽部』

(23) 理解^{わか}りあふといふのは映画のワンカット “水に挿した青い花、など

林和清『去年マリエンバートで』

副表記が抽象物もしくは動詞を示すものである。用例数は25例で作者数は10名である。熟字訓として使用されることが多い二重表記タイプであり、和語の柔らかい音、概念的な意味の範囲が広い語を好む現代短歌に適しており扱いやすいことから、使用が多くみられる。(21)のように「とき」を副表記に示す二重表記は多く、「時間」「季節」等がある。また他の分類では殆どみられなかった、(23)のように動詞を示すものが見つかっている。

■4 説明 〈4-4 略語〉

(24) 城壁の弾痕潜り抜けるたび^{もんしろ}紋白蝶白く白くなりゆく

惟任将彦『灰色の図書館』

(25) またひとつ無人駅増え 席ゆづるべき乗客のみない^{あぶきふ}阿武隈急行

吉田隼人『忘却のための試論 Un essai pour l'oubli』

(26) Google のニュースながめてプロジェクトマネージャー^Mのテキスト開いたところ
で眠る 浅羽佐和子『いつも空をみて』

主表記の語の一部を省略して副表記に示すものである。省略は短歌において音数調整の目的での使用が多いことは想定できる。(24)や「榛名山」「赤城山」のように拘束形態素を省略する例が多く見つかっている。短歌に限らずこのような省略は使用されやすい。(25)「阿武隈急行」は「あぶくまきう(ふ)こう(ふ)」の一部を省略した例である。主表記の一部を省略した例は「全身麻酔」「食器洗淨器」等がある。(26)のように主表記には複合名詞によって具体物を提示しながらも、音数はアルファベットのみで示すことが可能となり、音数制限に対して経済的な表記表現である。佐竹(1995)が示唆した、音数制

限による俳句の有限性を打破する新表記表現として、略語を使用した二重表記がその一端となる可能性は否定できない。

■4 説明 〈4-5 オノマトペ〉

(27) 保育園のおままごとでは赤ちゃん^{バブ}役ときまっているらしケチャップの口

浅羽佐和子『いつも空をみて』

主表記の語をあらわすオノマトペを副表記に示すものである。これまでに論じた研究はなく比較的新しい二重表記の使用だといえるだろう。(27)は、赤ちゃんの泣き声や話し声を表現するオノマトペ「(バブ)」を示している。「赤ちゃん」と「(バブ)」は繋がりが強く理解しやすい。

上記のように語の意味範囲の広い副表記に対して、主表記にその具体性を持たせる4説明は、現在安定的な使用があるといえる。

■5 相補

(28) ああ自分 啓発本^{ベストセラー}を読むたびに膨らんでゆく干からびてゆく

堀合昇平『提案前夜』

5相補に分類した用例は14例(男性12例、女性2例)、作者7名(男性6名、女性1名)で、用例・作者数ともに数は多くないが、性差の偏りがあった。5相補に分類される用例を使用した女性は、全体で1名であり、用例数は2例と男性に比べて少ない。これまで先行研究であまり扱われておらず、増加の傾向がみられる分類であるが使用者に性差があるとと言える。「啓発本^{ベストセラー}」は、「ベストセラーの啓発本」「啓発本のベストセラー」のように主表記と副表記のどちらも修飾語として言い換えることができる。この場合、自分が膨らみ干からびるきっかけが「(他のジャンルの本もある中で)ベストセラーの啓発本」か「(数多くある)啓発本の中でベストセラーになった本」かと、解釈の幅を作り出す。どちらか一方が説明的に機能しているわけではなく、相互に意味を補い合い一首が成立するため、主表記と副表記が同等の意味の役割を持つという特徴がある。用例数はまだ少ないものの注目に値する。

(29) ディフェンスは腰を落として顔上げて世界^{コート}で起こることすべて見ろ

千葉聡『海、悲歌、夏の雫など』

(29) 「世界」を「コート^{コート}の世界」とし、「試合場(コート)が一つの小さな世界であ

」という隠喩を元にした解釈が可能である一方、「世界のコート」とすれば「世界大会の試合をしている試合場（コート）」という換喩を元にした解釈をすることが可能である。

- (30) 「^{スコセッシ監督}タクシードライバー」のラスト五分は死んだあとの夢だよなんで気づかない
 んだ 林和清 『去年マリエンバートで』

(30) は「スコセッシ監督」が製作した（『タクシードライバー』という映画）のことである。「（スコセッシ監督）の『タクシードライバー』であれば、その次の句の「ラスト五分は」にも意味が繋がっていくが、単に副表記を読むだけでは大きな破調を生むだけでなく、下の句への繋がりが悪く歌意からも大きく外れる。そのため読みと内容ともに、主表記を中心としており副表記はその補助的な役割を果たしていると言える。

5 相補では、主表記と副表記それぞれに解釈に必要な意味を示す役割を持たせ、三十一音で収まり切らない情報の包含を二重表記が可能にしている。一般化が広く認められている 1 限定・ 2 翻訳・ 4 説明では大きな性差がみられなかったのに対して、5 相補では用例・作者数に僅かながら性差の偏りがみられた。そのため、5 相補のような役割を持つ二重表記は一般化する前段階であり、主に男性歌人によって牽引されていると想定できる。

■ 6 比喩

- (31) 青嵐 まぶたに舌を押しつけて皮下にうごめく^{まなこ}惑星とあそぶ
 陣崎草子 『春戦争』再掲

- (32) ひとりでも嬉しい夜は^{トランプ}兵隊を灯りの下で整列させて
 原田彩加 『黄色いボート』再掲

(31) は、「惑星」の形態や色彩と「まなこ（眼）」に類似性を見出し「惑星のような（まなこ）」と示した二重表記である。眼球が単なる身体部位ではなく、神秘的で遠いものとして惑星を想起したかもしれない。(32) は、前述の通り「兵隊のようなトランプ」という比喩の関係で表現している。「兵隊」を副表記なしで示した場合、玩具の兵隊か実際の兵隊のことであるのかと曖昧な点を残す。二重表記を示すことにより「（トランプ）」が擬人化され、「整列させる」にも繋がりがやすくなる。比喩を発想の起点とした二重表記は女性作者による 2 例のみであるため、この結果のみで作者や役割の特徴について論じるには至らないが、これまで論じられておらず今後注視する必要があると言える。

4. まとめと今後の課題

分析結果をまとめると、先行研究の多い 1 限定・2 翻訳・4 説明の使用は用例数が多く、使用に性差はあまりみられなかった。一方で、調査結果から〈表現としての二重表記〉の中でも注目すべき点として以下が挙げられる。

1) 代名詞を用いた二重表記使用率の低さ

3 代名詞の用例数は、426 例中 1 例と少なかった。二重表記に代名詞の使用が多いと論じられている漫画や小説などの文学ジャンルとは異なる特徴が現代短歌にはあることが想定されるが、この実証については稿を改めることとする。

2) 新奇性の高い二重表記役割の拡充（本分類 1 限定〈1-2 記号〉・5 相補・6 比喻

〈1-2 記号〉・5 相補・6 比喻分類を含め先行研究の分類でも網羅できない特殊な二重表記が多く収集された。単なる読み方を示すに留まらない現代短歌の二重表記は、表記によって新表現を模索する日本語の動きの先端の一つであると言える。

3) 表現意図のある〈表現としての二重表記〉を男性作者が牽引している可能性

5 相補の使用には性差の偏りがあることが明らかであった。この結果から男性作者による積極的な二重表記の創作が盛んになりつつあると評価できる。

本研究では、〈表現としての二重表記〉の中でも特に新奇性の高い分類項目を中心に分析を行うことで、これまで論じられることの少なかった二重表記の役割を、詳しく分析することができた。しかしながら〈表現としての二重表記〉の機能は幅広く、階層化する明確な基準を設けることが困難であったため、分類項目の一部ははまだ課題が残っている。

また日本語学として学術的な研究対象となりにくい現代短歌であるが、他の文学形態と同様に、新表現を模索する動きが繰り広げられていることには疑う余地がない。今後は、本研究で設定した分類基準を改修しつつ、現代短歌における二重表記という表記表現の動向に注目し続けていく。

参考文献

- 泉文明(1993)「二重表記の現在-短歌・俳句の表記の調査-」『日本語学』12(3), pp. 95-104, 明治書院
- 岩淵匡(1988)「振り仮名の役割」『日本語の文字・表記(下)』(講座日本語と日本語教育 9), pp. 58-86, 明治書院
- 内山和也(2002)「振り仮名表現の諸相」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第 2 51, pp.301-309
- 大島中正(1989)「表記主体の表記目的から見た漢字仮名並列表記形式-いわゆる振り仮名形式をめぐって-」『同志社女子大学学術研究年報』40(4), pp.440-454 同志社女子大学教育研究推進センター

- 今野真二(2009)『振り仮名の歴史』集英社新書
- 今野真二(2013)「振り仮名 二つの言語の架け橋 (特集 ことばの名脇役たち)- (書きことば)」
『日本語学』32(5), pp.144-156, 明治書院
- 今野真二(2013)『正書法のない日本語』岩波文庫.
- 今野真二(2015)『図解 日本語の歴史』河出書房新社.
- 京極興一(1981)「振り仮名表記について」『信州大学教育学部紀要』44, pp.222-210
- 佐竹秀雄(1980)「表記行動のモデルと表記意識」『電子計算機による国語研究 X』10, pp.142-168 (国立国語研究所報告 67) 秀英出版
- 佐竹秀雄(1993)「俳句における振り仮名の用法と意義 (現代俳句と振り仮名(ルビ) (特集))」
『俳句研究』60(2), pp.36-41, 富士見書房
- 佐竹秀雄(1995)「現代俳句と言語研究」『日本語学』14(1), pp.19-24, 明治書院
- 白勢彩子(2012)「「当て字」の現代用法について」『東京学芸大学紀要』63, pp.103-108
- 武部良明(1979)『日本語の表記』角川書店
- 半沢幹一(2016)『言語表現喩像論』おうふう

調査資料

- 「新鋭短歌シリーズ」(書肆侃侃房) 2013年5月～2018年12月
- 「現代歌人シリーズ」(書肆侃侃房) 2015年4月～2019年3月

付記

本研究は、日本語学会 2019 年度秋季大会 (2019 年 10 月 26 日 (土) 東北大学) で口頭発表した内容及び、修士論文 (清水 2019) の調査 1 を修正・加筆したものです。発表の際には多くの先生方から貴重なご教示を賜りました。感謝申し上げます。

(埼玉大学大学院人文社会科学部研究科博士前期課程)

2019年度海外日本語教育実習報告

—浙江工商大学での気づきと成長—

松本 匡史・川亦 和也

【キーワード】

中国、杭州、浙江工商大学、海外教育実習、実習報告、日本語教育

【要旨】

本稿は、2019年12月に浙江工商大学で行われた海外教育実習の実習報告である。約1週間の実習報告に加え、中国での様々な気づきを振り返る。今回の海外実習では様々な経験をする事ができ、現地で体験するという事の大切さを感じることができた。

1. はじめに

本稿は、2019年12月2日から12月6日にかけて、浙江工商大学で実施された海外日本語教育実習の実習報告である。本実習は、埼玉大学の学部生と大学院生の計2名が、中華人民共和国の浙江省杭州市にある浙江工商大学（以下ZJSU¹）にて行なったものである。

本稿では日本語教育実習の報告に加え、私たちがこの実習で気づいた日本語教育以外のことについても述べていく。筆者²は、海外実習や海外での生活の経験は、日本語教師としての成長はもちろんであるが、人間として成長できる素晴らしいものだと感じている。日本語教師に必要なものは、日本語や日本語教育に関わる知識などはもちろんだが、それに加え、人としての魅力、コミュニケーション能力、異文化適応能力など様々なものが必要であると考えます。

平畑（2010）は、海外での日本語教師経験のある172名の日本人日本語教師に対して、活動に必要なと思われる資質の調査を行った。質問紙調査の結果、望まれる資質として6つ



浙江工商大学

¹ Zhejiang Gongshang University（浙江工商大学）、以下ZJSUと略して表記する。

² ここでいう筆者とは、執筆者の一人である松本匡史のことである。3節以外は松本が記述しており、そこに書かれていることは松本の主観である。

の因子を抽出した。その6つとは、「意欲」「人間性」「教育能力」「コーディネート能力」「国際感覚」「日本人性」である。この6つの因子には複数の下位項目があり、「意欲」には「前向きさ」など、「人間性」には「誠実さ」「現地の文化・価値観の理解と受容」「コミュニケーション力」など、「国際感覚」には「生活適応能力」「相互交流・相互理解への配慮」などが含まれている。もちろん日本語教師特有の教授法などのスキルも必要なのだが、それ以外の人としての能力も重要だということが明らかにされた。平畑（2010）では海外で活動する日本語教師に必要な資質について述べられているが、これらの資質は日本国内の日本語教師においても求められる資質であろう。さらに、グローバル化が進んだ現代では、日本語教師特有のスキル以外のものは、一般的な社会人にも求められる資質だと考えても良いだろう。つまり、海外での経験は、日本語教師はもとより、一般的な社会人にも必要とされる人としての能力の涵養に寄与すると思われる。

そのため、本稿では実習報告に加え、中国で気づいた様々なことを振り返る。それが人としての成長につながる過程であると考えられる。

2. 実習報告

2-1 実習概要

本実習では、12月1日と7日を移動日とし、実質的な実習は2日から6日までである。表1に本実習の日程を掲載する。「」は授業名、（ ）は学年を表している。表1を見てわかる通り、基本的には午前中は同じ授業内容のものを別クラスに対して行なっている。そのため、内容はほぼ同じであるが、学生³が違うため、授業の進め方が異なっている。クラスごとの雰囲気も違うため、雰囲気に合わせた授業の進め方を学ぶことができた。各授業では、ZJSUの日本人日本語教師（以下NT）または中国人教師（以下NNT）⁴が主体となって授業を行い、私たちが適宜授業参加を行うという形で進め、授業後は毎日レポート（日報）を記録した。



大学敷地内

1限分の授業時間が違うが、ZJSUでは各時限内の途中休憩の時間が異なっているためであり、実質的な1時限分の授業時間は1時間半である。午前中は1限（8:05～）と2限（9:50～）があり、その後、昼休憩となる。約2時間の昼休憩後、3限目（13:40～）が始まる。

なお、私たちは中国語がほとんどできないため、中国滞在生活をサポートする大学院生2名がチューターとして手助けしてくれた。

³ 本稿では、ZJSUで日本語を学ぶ大学生および大学院生を、学生と表記している。

⁴ 日本人日本語教師をNT（Native teacher）、中国人教師をNNT（Non-native teacher）と表記する。

表 1. ZJSU 日本語教育実習日程表

	午前	午後
12/1 (日)	移動日	
12/2 (月)	8:05~9:35 「古典日本語」(4年生) 9:50~11:25 「古典日本語」(4年生)	13:40~15:20 「日本文学」(3年生)
12/3 (火)	8:05~9:35 「基礎日本語1」(1年生) 9:50~11:25 「基礎日本語1」(1年生)	13:40~15:20 「模擬会議通訳」(大学院生)
12/4 (水)	8:05~9:35 「日本語語音」(1年生) 9:50~11:25 「日本語語音」(1年生)	
12/5 (木)	8:05~9:35 「日本語語音」(1年生) 9:50~11:25 「日本語語音」(1年生)	17:30~18:30 中日学生交流会
12/6 (金)	8:05~9:35 「基礎日本語1」(1年生) 9:50~11:25 「基礎日本語1」(1年生)	
12/7 (土)	移動日	

2-2 授業報告

2-2-1 実習1日目 (12/2)

以下では、日にちごとに実習内容などを振り返る。

実習1日目午前は、NTが担当する4年生の「古典日本語」の授業に参加した。源氏物語や中世和歌の説明や音読などを行っていた。内容自体は、日本の中学校の古典で教わるような内容であった。そのため、外国人にとって内容は簡単ではないのだが、授業は直接法で行われており、学生のレベルの高さに驚かされた。中学生当時、古典はとても難しかったという記憶があるが、日本語で日本の古典を学ぶ中国人学生に衝撃を受けた。筆者は、コスタリカや日本国内で日本語教師経験があるのだが、授業カリキュラムは日本語を教えることだけで余裕がなく、日本語や日本に関わる周辺分野までほとんど手が回らなかった。日本語を使い、日本語以外の授業をすることは、インプットのにもアウトプットのにも有効だと思われる。

午後は、NNT が担当する 3 年生の「日本文学」の授業に参加した。近松門左衛門や松尾芭蕉の作品を中心に紹介を行っていた。作品の内容を中国語で説明したり、芭蕉の俳句の解釈などを、学生と相互交流しながら授業を進めていた。知らない内容も多く、得ることも多かった。

ZJSU では、日本の大学院進学や日本近代以前の文献研究を目指す学生もおり、古典日本語学習の需要があるということも関係しており、これらの授業は ZJSU の特徴的な点でもある。そのような授業に参加できたことは意義深いものであった。

2-2-2 実習 2 日目 (12/3)

実習 2 日目午前は、NNT が担当する 1 年生の「基礎日本語 1」の授業に参加した。使用教材は『日語総合教程』であった。1 限の授業は 8 時 5 分からのため、私たちはその 10 分くらい前には教室に着いたのだが、すでに学生が着席しており、音読などの自主勉強を皆がしていたことに驚いた。今回の実習では 1 年生は 2 クラスで、両クラスとも学生数は 40 人程であるのだが、ほぼ全員が朝早めに来て自主勉強をしていた。日本の大学では見られない光景に、文化の違いを感じた。



ロールプレイをする学生

授業の初め、まずはロールプレイを自ら考え、習った文型などを使っての発表を 2 組行なった。ZJSU の 1 年生クラスは 40 人ほどもいるため、なかなか全員がアウトプットすることが難しいが、なんとか学生に発話させようとの意図を感じた。

NNT の初級クラスでは主に、中国語を使った明示的な文法説明が行われていた。いわゆる講義型の授業であるが、NNT の話し方が上手く、学生の笑いが多くあり、退屈しない授業であった。そして、宿題に暗唱があるのも特徴的なところであった。NNT と NT では授業に対する役割が分かれており、NNT は中国語による明示的なインプット、NT は直接法によるインプットとアウトプットを行なっているようであった。

久保田 (2009) は、各国の NNT のビリーフ (言語観・学習観・教授観) の違いに注目し調査を行なっている。その結果、「ベトナム、中国は、米国に比べて「文法・暗記・訳読型」の傾向が強いことから、「正確さ志向」⁵の傾向も、ベトナム、中国の方が米国よりも強い」(pp.194-195) と述べている。そして、その「正確さ志向」に影響を与えるものとして NNT には、自らの母語で日本語についての「明示的な知識があるという点でネイティブより優れているという自覚があり、明示的な説明を肯定的にとらえている傾向」

⁵ 「正確さ志向」とは、「言語の構造や発音の面での「正確な」産出を目指し、そのために授業では文法の詳しい知識を与え、練習においても正確さを求め、学習量を重視し、教師自身にもできるだけネイティブに近い「正確さ」を求める」(久保田 2009:189) 志向である。

(p.207) が見られたと報告している。

これは「正確さ志向」や「文法・暗記・訳読型」が良いとか悪いとかの話ではなく、地域によって NNT のビリーフに違いがあるということである。ZJSU では NNT と NT の違いに則した役割があり、それが適切に組み込まれていたことが印象的であった。

午後は、NNT が担当する大学院生の「模擬会議通訳」の授業である。この授業は大学院生の通訳の授業であるが、レベルの高さに唖然とした。内容は同時通訳の練習であった。まず私たちが自己紹介も兼ねて、自由なテーマでの話を行なったのだが、それをいとも簡単に同時通訳を横で練習していた。もちろん事前にテーマの打ち合わせは行なっておらず、授業の始まる 10 分くらい前に内容を考えた。通常、学習者との会話では語彙コントロールをするが、この時はしておらず、スピードも通常の日本語発話で行なった。中国の日本語教育が進んでいるとは知っていたが、同時通訳ができるレベルまでとは予想だにできなかった。

授業後には、実習をコーディネートしてくださった先生に大学内を案内していただいた。そこで印象的だったのが、図書館での勉強風景だ。大学院の入試が近いということで、大勢の大学生が自主勉強をしていた。自習室内は満席になっており、みな黙々と勉強していた。さらに、廊下では多くの大学生が歩きながらそして座りながら、ぶつぶつと何かを呟いて暗唱をしていた。ここでは、日本語以外の科目でも暗唱が大切なようだ。



図書館内の廊下で勉強する学生

2-2-3 実習3日目 (12/4)

実習3日目午前は、NT が担当する1年生の「日本語語音」の授業に参加した。内容は、会話と聞き取りを合わせたようなものである。1年生だが、NT による直接法での日本語インプットとアウトプットをメインとしている。

やはり、1年生なので日本語の産出はまだだである。しかし、聞き取り練習問題中に机間巡視をしていたが聞き取りはよくできていた。1年生から、生の日本語に慣れさせることを目的としているようだ。

午後は授業がなかったため、学生とともに市内を見て回った。私たちは中国語が話せないの、この時も学生はすべて日本語でいろいろな説明をしてくれた。このような生きた



机間巡視

日本語アウトプットができることは、学生にとっては良い練習になったであろう。中国人と日本人の異文化交流という意味でも、海外で実習するということは、日本語学習者にとって良い影響を与えるものであると感じた。

2-2-4 実習 4 日目 (12/5)

実習 4 日目も、NT が当する 1 年生の「日本語語音」の授業に参加した。内容は前日と同じで、会話や聞き取りなどである。私たちは適宜、授業補助を行っていたのだが、何回か学生からの質問にうまく答えることができず歯痒い思いをした。それは、ほとんどが言語の問題であった。私たちは中国語での質問が理解できず、学生も日本語での質問ができない。海外の日本語教育現場では、NT には多少の語学力と、学生には日本語での質問方法というストラテジーが必要なのだろうと感じた。

この日も午後は授業がなかったが、「中日学生交流会」というイベントが催された。この交流会には、日本語専攻の多くの学生と ZJSU に交換留学などで来ている数名の日本人留学生が参加した。日本人交換留学生は中国語が話せるようで、中国語で会話をしていた。私たちは日本語だけであったが、本実習では授業に参加できなかった ZJSU の 2 年生とも話すことができ、このイベントは私たちにもそうだが、学生にも生の日本語に触れる良い経験になったようだ。



中日学生交流会

2-2-5 実習 5 日目 (12/6)

実習 5 日目は、NNT が担当する 1 年生の「基礎日本語 1」の授業に参加した。使用教材は『日語総合教程』である。これは中国人向けの日本語教材で、1 課で扱う文型が多い。『みんなの日本語』で 3、4 課かかるところを 1 課で終わらすような早いペースで進んでいく。中国の日本語専攻の高等教育機関では、1 年半から 2 年ほど勉強すると、日本語能力試験の N1 に合格できるようになるそうで、非常にペースが速い。そのため、文法説明は時間のかかる NT の直接法ではなく、NNT が中国語で手早く終わらせる。NNT の授業には巧みな話術が必要で、この授業でも手早く説明しつつも、学生の関心を引きつけるような授業が行われていた。

この日が実習最終日であったが、ZJSU では NT には不可能な、NNT の能力を十分に活用した授業が行われているのが印象的であった。授業ペースが速いため、学生は自習が当然必要になってくるのだが、しっかりと自習しているようであった。日本の大学とは多くの面で違うのだが、中国に合った中国の日本語教育を見ることができ、今回の実習はとても良い経験を積むことができた。

2-3 授業以外について

ここでは、授業以外のことについて簡単に述べる。

私たちは実習中、「歌江維嘉大酒店」というホテルに泊まっていた。ここは ZJSU の近くにあるホテルで、授業が行われていた教室まで歩いて 10 分ほどのところにあり便利であった。部屋は 2 人部屋であったが、快適で何も苦労はなかった。ただ、英語があまり通じなかったので、ホテルの人と話すときは注意が必要であった。私たちは携帯の翻訳機能を使い、用を済ませていた。そして、このホテルや大学内でもそうだが、中国では wifi 環境があまり良くないため、インターネット使用は日本と同じように考えてはいけない。

お金事情も日本とは違い、中国では今はほとんど電子マネーである。現金お断りの店も多く、注意が必要である。大学の学生食堂でも同じで現金は使用できない。そのため毎回昼食はチューターに払ってもらい、最終日にまとめて現金を手渡すという方法をとった。電子マネーが普及しているのは確かに便利なのだが、中国の携帯電話



学生食堂

を持たない外国人には不便であった。一度、チューターがいない時に、大学敷地内のファミリーマートでペットボトル 1 本を買おうとしたのだが、店員に「No cash」と言われて困った。実はこの店では前日、食料品などを現金で買ったので、現金が使えると考えていたのだが、どうもこの日は何らかの事情で現金お断りになったようだった。チューターもおらず、携帯電話の電子マネーがないため、大きいお金しか持っていない筆者は買うのを諦めようとしたのだが、その時、見ず知らずの中国人女子大学生が英語で声をかけてくれた。彼女は「私が払ってあげるよ」と言って、自分の携帯でサッと払ってくれた。彼女は「大丈夫、大丈夫」と言っていたが、感謝の気持ちとして日本円で 100 円を彼女に渡した。

突然のことで、助けてくれた彼女に十分な礼ができなかったことが心残りだが、中国人の優しさに触れることができた心温まる経験だった。日中両国間は、その国の人に対する良いニュースも悪いニュースも報道され、それによって偏見も生まれている。だがそれは、やはり無知からなる偏見で、実際に現地で体験しなければ、本当の中国人も日本人も理解できないだろう。今回の海外実習では、このような体験も含め、現地で体験するという事の大切さを感じることができた。

次節は埼玉大学学部生の実習報告である。

3. 浙江工商大学での実習を通して

今回 7 日間の実習を通して、非常に多くの刺激を受け、有意義な時間を過ごすことができた。海外の大学での授業観察を通して学んだことも多くあったが、チューターの方々

や現地の学生と交流する中で感じたことも貴重な経験となった。大学での気づきと異文化交流の大きく二つに分けて述べていこうと思う。

ZJSUでの日本語教育プログラムでは、日本人講師によるネイティブの講義と、中国人講師によるノンネイティブの講義両方に参加した。主に大学1年生を対象とした日本語の講義に参加したのだが、学習期間3ヶ月とは思えないほど授業のスピードがとても早く、一度に多くの文法項目を扱うため、予習をしていないとついていけない授業であると感じた。だが、ほとんどの学生が真面目に予習をしてきていて、日本の大学とはかなり違う雰囲気であった。日本の大学での言語教育は、高校までの言語教育とは大きく異なる印象を持っているが、中国では、高校の延長線上のような言語教育が行われている。学部の色も影響しているかもしれないが、いい意味での詰め込み教育を行っている感じがした。学生の大半が日本への留学を目指していることもあり、授業への積極性や、日本語を習得しようとする意欲が感じられ、海外の日本語教育現場の実際の雰囲気を肌で感じることができた。その中でも、大学院生対象の授業である、「模擬会議通訳」は衝撃的な印象を受けた。なぜなら、現地の大学院生がその場で読まれたテキストを同時通訳するというものであり、海外のトップレベルとも言える日本語教育現場に参加することが出来たからである。なかには、違う大学から編入したという院生もいて、それでも流暢な日本語で通訳をしているのを聞き、レベルの高さに感動を覚えた。筆者は日本語教育に出会ったのが最近であるので、海外での日本語教育も、国内の日本語教育もどのように行われているのかあまりよくわからないのだが、それでも今回の実習先は教育レベルが高いと感じられる大学であり、レベルの高い教育や参考となる授業風景を見ることができた。



「模擬会議通訳」で通訳する学生

今回の実習では、現地の学生と交流する機会が非常に多く設けられ、その中で感じたことも多くあった。なかでも強く感じたことは、日本語教師はこの先日本語を教えるだけでなく、日本語の知識だけでなく日本のアニメについての知識もある程度は必要であるということだ。近年、日本のアニメや漫画文化が海外に浸透してきているということは周知の事実であるが、しかし今回の海外実習で現地の学生と交流していくうちに、自身の思い描いていたアニメの浸透を遙かに上回る日本語教育上のアニメの影響があるということがわかった。筆者が交流した学生の大半は、アニメをきっかけに日本語を勉強していたのである。筆者はアニメの知識があまりなく、国民的アニメと呼ばれる「サザエさん」程度のアニメの知識しか持っていないので、現地の学生との会話がさっぱりわからないということも多くあった。このような体験から、今後学習者と教師のコミュニケーションを円滑にするための鍵は、「アニメ」となるのではないかと感じ、言語と文化の結びつきは大きく、言語教育には文化教育がつきものであるということ改めて理解で

きた。

以上のように、教育現場から学んだことはもちろん、それ以外の活動を通して発見した日本語教育に影響を与えるものや、日本との文化的差異は日本では感じることでできない貴重な経験となった。この実習期間が充実したものとなったのは、サポートをしてくださった先生方をはじめ、チューターの方々、そして交流をしてくださった現地の学生がいてくださったおかげである。この海外研修を支援してくださった方々に深く感謝いたします。7日間本当にありがとうございました。

4. おわりに

本稿では、中国で実施された海外日本語教育実習の報告を行なった。本実習期間中、大きな問題もなく、快適に過ごすことができた。これも ZJSU の先生方とチューター、そして学生の手助けがあったからである。先生方には、授業のアドバイスなどをしていただき、中国の日本語教育に対する理解を深めることができた。それに加え、私たちのための歓送迎会を開催していただき、心からの感謝を申し上げる。そして、1週間一緒に行動を



学生による市内案内

共にし、多くのサポートをしていただいた2人のチューターに対しても感謝している。中国語がまるで話せない私たちがストレスなく中国実習を終われたのは、この2人のサポートが大きかったのは言うまでもない。

今回の実習で多くの貴重な体験をすることができた。「百聞は一見に如かず」という諺があるが、まさにその通りで、様々な気づきと学びがあった。

佐久間 (2013) は、いわゆる“グローバル人材”に必要なこととして海外での様々な体験の必要性を説いている。「現地の人々と一緒に悩み、現地の人々に教えられたり助けられたりして、やがてその問題を乗り越えていく。若者が“グローバル人材”と呼びうる人材になっていく道筋は、もちろん多様である。(中略) 国・地域に暮らし、現地のことばを使って現地の人々と喜怒哀楽を共にし、多種多様な問題に向き合い、悩み苦しみ、それぞれの方法で、少しずつ成長していく」(pp.182-181) と述べているように、現地での生活と、その苦しみや喜びなどを体験することによって人は成長していくのである。

この海外実習プログラムは約1週間と短いが、来年以降も多くの埼玉大学生が参加し、その経験が人としての成長に繋がることを願う。

謝辞

本プログラムの実施に際して、学長裁量経費（学生支援経費）による助成を受けました。また、埼玉大学教養学部よりご支援を頂きました。ここに記して感謝を申し上げます。

す。

そして、私たちを快く受け入れてくださった浙江工商大学東方語言文化学院（東方語言・哲学学院、2020年1月2日改称）に対しても謝意を申し上げます。それに加え、実習中に多大なるご支援をいただいた浙江工商大学の呉玲先生、呉毓華先生、丁之群先生、そして様々なご配慮をしてくださった岡田重美先生に対しても深い感謝を申し上げます。埼玉大学の劉志偉先生には、引率や実習全般に御尽力してくださいましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。

最後に、中国生活全般をサポートしてくださったチューターの沈曉雪さん、程希さん、ありがとうございました。

参考文献

- 久保田美子（2009）「ノンネイティブ日本語教師のビリーフの要因—インタビュー調査から共通要因を探る—」『日本語教育をめぐる研究と実践』水谷信子（監修）・桜井隆（編），凡人社，pp.185-210.
- 佐久間勝彦（2013）「青年海外協力隊事業再考—“グローバル人材”育成の観点から—」『聖心女子大学論叢』121，pp.194-166.
- 平畑奈美（2010）「海外で活動する日本人日本語教師に望まれる資質の構造化—海外教育経験を持つ日本人日本語教師への質問紙調査から—」『早稲田日本語教育学』（5-7），pp.15-29.

松本匡史（埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程）
川亦和也（埼玉大学教養学部生）

2019 年度研究大会

2019 年度研究大会は、以下の通りである。

- (1) 日時：2019 年 12 月 14 日（土）
- (2) 時間：13 時～17 時 30 分
- (3) 場所：埼玉大学教養学部 21 番教室
- (4) 研究大会の進行：司会（望月雅美）口頭発表（発表 35 分＋質疑 25 分）

①大上紗弥（埼玉大学教養学部日本文化専攻）

「句接続のくさい」に関する一考察 ～「ぼい」との比較を通して～」

②井上直美（埼玉大学人文社会科学研究科博士前期課程）

「お／ご～おき系列の表現について」

③李兮然（埼玉大学人文社会科学研究科博士前期課程）

「過去推量形「～タロウ」と「～タダロウ」の使用実態—BCCWJ の文学作品を資料として—」

④松本匡史（埼玉大学人文社会科学研究科博士前期課程）

「コスタリカ人日本語学習者の言語学習ビリーフ について」

「句接続のくさい」に関する一考察 ～「ぼい」との比較を通して～

大上紗弥（埼玉大学教養学部日本文化専攻）

形容詞や接尾辞用法が一般的である「くさい」が、句に接続する形で出現していることに着目した。その意味拡張の仕方が特にも似ている「ぼい」と比較しつつ、アンケート調査の結果を基に「句接続のくさい」の意味拡張・許容度・前接する要素・使用実態に迫ることを研究目的とする。

まず、意味拡張と許容度については「くさい」「ぼい」ともに二重推量での使用は許容されないこと、年齢層が上がるにつれて許容されにくくなることを指摘する。次に、前接する要素に関して「ぼい」は左右されず、「くさい」はマイナスの意味を持つと許容されやすくなるということを提示する。また、使用実態については、「句接続のぼい」が若干の使用条件があるもののほとんどの年代で使用や見聞きされている一方、「句接続のくさい」は間違った日本語として多くの年代から捉えられていることが確認できる。最後に、接尾辞の助動詞化として「らしい・みたい・ようだ・そうだ」「ぼい」「くさい」「～げ・～み」を体系的にまとめ、アンケート調査の方法・作例・実例調査などを課題とし結論付ける。

お／ご～おき系列の表現について

井上直美（埼玉大学人文社会科学部研究科博士前期課程）

「ご承知おき頂きたい」、「お含みおき願います」、「お見知りおきを」などの「お／ご～おき系列の表現」は、日本語教育の教材類に詳しい解説がなされていない表現である。本研究は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』を用いてこの表現の実例を分析し、その特徴を記述することを目的とする。

分析の結果得られた「お／ご～おき…」の特徴は、①注意喚起や配慮求めの場面で、話し手が聞き手に対し“情報を維持すること”を求める際の表現であること、②データに現れた共起語は9種と少なく、生産性の低い表現であること、③出現した共起語は「思考・認知・記憶」に関わるものに偏っており、現代日本語の「Vておく」、「Vおく」とは違うふるまいを見せることの3点である。

また、出現数が最多の形式は「ご承知おき下さい」であったが、これと「ご承知下さい」の実例を比較考察することにより、“おき”の有無による意味の違いについても検討した。

過去推量形「～タロウ」と「～タダロウ」の使用実態

—BCCWJの文学作品を資料として—

李兮然（埼玉大学人文社会科学研究科博士前期課程）

本稿は、現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）に収録されている文学作品を調査資料として過去推量形である「～タロウ」と「～タダロウ」の使用実態を分析するものである。

結果として、まず、前接する語の品詞に関して、動詞や補助動詞が前接する動詞型の場合、「～タダロウ」の使用が好まれるのに対し、名詞を代表とする名詞型の場合、「～タロウ」の使用が好まれる傾向が見られた。また、過去推量形の意味的用法と、会話か地の文かとの間に相互関係があり、「推量」と「不定推量」は「地の文」に多く現れ、「確認要求」は「会話」に多く現れることが確認できた。最後に、経年変化について、1940年代以降、「～タダロウ」の使用数が「～タロウ」を上回るものの、「～タロウ」もまだ使われ続けている等の特徴を明らかにした。

コスタリカ人日本語学習者の言語学習ビリーフについて

松本匡史（埼玉大学人文社会科学研究科博士前期課程）

本稿では、コスタリカ人日本語学習者を対象に言語学習ビリーフ調査を行なった。調査の目的は、コスタリカ人日本語学習者の特徴を把握することにより、コスタリカでの日本語教育を発展・改善するためである。本調査結果を、メキシコを対象とした先行研究結果と比べることにより、コスタリカ人のビリーフを把握する。それに加え、コスタリカ人学習者を「高等教育機関」と「その他の学習機関」の2グループに分け、*t*検定を用い比較した。その結果、全51項目中9項目で有意差が確認された。

編集後記

2019年11月19日、仁科弘之先生が逝去されました。さいたま言語研究会は2016年7月、仁科先生の掛け声のもとに発足したものです。研究会を発足させるための、そして軌道に乗せるための御尽力のおかげで、無事に第4号の発行を迎えられました。もっと長きにわたって見守っていただけたらと、本当に残念でなりません。先生に深い感謝と哀悼の意を表するとともに、研究会の灯を消さず、さらに発展させていくことを心に期したいと思います。

さいたま言語研究会

【会則】

1. 名称

さいたま言語研究会と称する。

2. 目的

本研究会は、埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし、理論言語学言語教育実践まで、幅広く学術情報を発信する。

3. 活動内容

(1) 年に1回（12月）、研究大会を開催する。

(2) 年に1回（3月）、オンラインジャーナル（さいたま言語研究）を発行し、ホームページで公開する。

(3) 年に数回、勉強会を開催する。

4. 運営委員（2019年度）

(1) 顧問：小出慶一、仁科弘之

(2) 世話役：金井勇人、川野靖子、劉志偉

(3) 幹事：河正一、蔡梅花

(4) 勉強会：望月雅美

【入会の手続き】

1. 入会希望の方は「入会申し込み」と明記した上、メールで以下の情報をお知らせ下さい。

(1) 名前（漢字及びローマ字）

(2) 住所

(3) 電話番号

(4) メールアドレス

(5) 所属（学生ではない場合は勤務先）

(6) 専攻分野

2. 本研究会では、年会費の徴収は行いません。ただし、研究大会の開催時に、参加者から参加費（500円）をいただきます。

『さいたま言語研究』

【投稿規定】

1. 投稿原稿の種類は、以下の3つとする。
 - (1) 研究論文：独創性と新規性があり、言語研究の進展に貢献する実証的もしくは理論的研究（12頁程度）。
 - (2) 研究ノート：言語研究を活性化させる契機となりうる知見や問題提起など（10頁程度）。
 - (3) 研究資料：言語研究に関する資料や情報など（8頁程度）。
 - (4) 解説論文：研究動向や研究トピックの解説など（8頁程度）。
2. 応募締切：毎年2月28日
3. 提出先：saitamagengoken@gmail.com
4. 結果：査読・検討の上、投稿者には3月10日までに結果を連絡する。
5. 発行：毎年3月31日

さいたま言語研究 第4号

発行日	2020年3月31日
発行者	さいたま言語研究会
Homepage	http://saitamagengoken.sakura.ne.jp/index.html
E-mail	saitamagengoken@gmail.com

Saitama Gengo Kenkyu

vol.4

2020. 3